唐土名勝圖會　直隸　五

唐土名勝圖會第一集卷之五

目次

直隸　目録

順天府　保定府

永平府　河間府

特別
ル5
4025
5

直隸

阿波國文庫

NL5
4025
5

<99-184>

順天府

通州　昌平州　涿州　滿城縣
薊州　良鄉縣　固安縣　唐縣
東安縣　香河縣　三河縣　完縣
宝坻縣　寧河縣　武清縣　高陽縣
懷柔縣　房山縣　順義縣　密雲縣
保定縣　平谷縣　文安縣　大城縣

保定府　祁州　安州
清苑縣　定興縣　新城縣
安肅縣　望都縣　容城縣
滿野縣　雄縣　遂城縣
蠡縣
新安縣

霸州
永清縣
武清縣

圖說

大興苑平ノ二縣ハ即京師ニ係リテ故ニ此卷ニ
ムれをのせゞル圖中ニ所ル赤ノ南海ハ苑囿ノ南
園ノ西海ハ西苑ニ其外玉泉山甕山及ビ西山天
壽山ヨリ京師ヲ環リ乾桑河盧溝橋ニ到ルまで
郊坰ニ記シテ爰ニハ圖ノミヲ出セリ合一見テ
全ト知ルベシ易州ハ直隸州ナリトいへども
方位ニ依テ府ノ圖ニ係ル故ニ次下諸准ヲ知ルベシ

永平府　遷安縣　樂亭縣　臨榆縣

河間府　獻縣　河間縣　交河縣　任丘縣　東光縣　故城縣

滄州　鹽山縣　慶雲縣　南皮縣　無棣縣　樂陵縣　阜城縣　吳橋縣　景州　寧津縣　肅寧縣

唐土名勝圖會卷之五

故兼葭堂木世肅先生遺意　編述　法橋　岡田玉山尚友

岡　熊岳文暉　全畫

大原東野民聲

順天府

京縣二。曰大興。曰宛平。州五。曰通州。曰昌平州。曰涿州。曰薊州。縣十有七。曰良鄉。曰固安。曰永清。曰東安。曰香河。曰三河。曰武清。曰寶坻。曰寧河。曰順義。曰密雲。曰懷柔。曰房山。曰文安。曰大城。曰保定。曰平谷。都而屬順天府。○大興宛平の二縣を京城と係るゆゑ。略之。通州以下の州縣を此卷之記し。順天府を全後之。

通州

順天府の東南十八里にあり。秦の良鄉縣より後漢の時漕運通濟の義をもて通州と名く。今尚ほ仍之。領州一。縣二。編戶二十六里。

白河

一名潮河。順志云。密雲縣より南牛欄山の東にて潮河と合流して通州に至て沽河と合一して白河と名く。名勝志云。密雲縣より出て富河の水と合て運河に注ぐと。一統志の說と合。

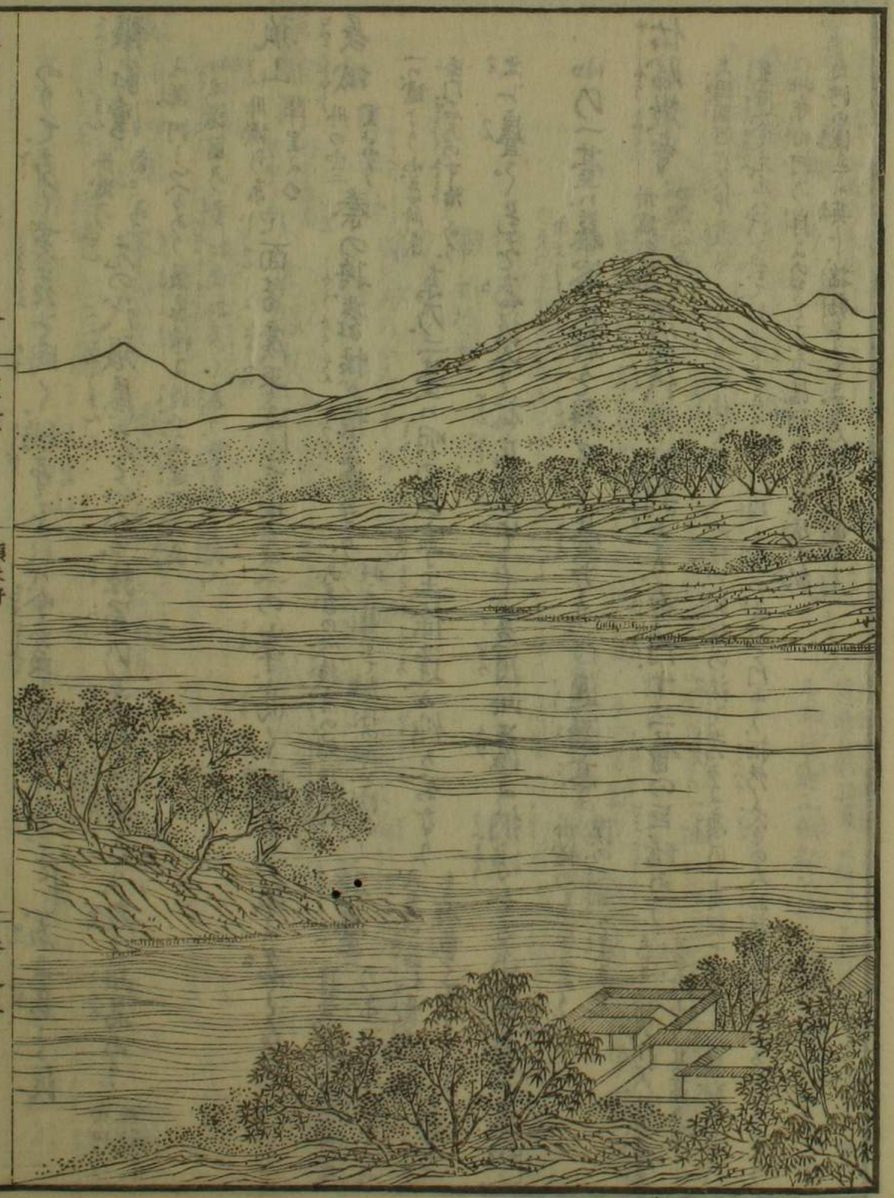
鮑丘河

一名一通州の東にあり。水經注云。漁陽の小塞より南に流れ九百餘里。密雲縣の武と經て南遒人渓の水と合一。通州の東にて北運河に入る。○名勝志云。鮑丘河の兩岸皆白沙にして。蘆葦一根もなし。故に白河の名あり。○今俗呼兒渡。州城の北二十五里にあり。廣さ三頃許。水上渡草

府城　州城　縣　水　直隸境　名勝古跡

宣化府
延慶州界
懷柔
順義
昌平州
通州
京師順天府
大興
宛平
武清
良鄉
房山
固安
東安
永清
霸州
涿州
保定
大城
文安
榆林驛
天津關
紫荊關
易州界
河間府任丘縣界

永平府灤州界
薊州
三河
平谷
寶坻
香河
寧河
王田
豐潤
直隸遵化州
天津府界
靜海縣界
大喜峰口



佑勝教寺



あり。多く葵花を開く。瞰望をよろしくば全臺を浮べてうごかしがたし。因て名とす。

張家灣　州城の南にあり。元の代張萬戸をつくる。強富の者此地に居とり。因て此名あり。白河の下流也。

又澤河とつゞくあり。張家灣より澤まで運河を流す。此地滿園の貢私商船多く集り。都会の港をなす。

孤山　州城の東北四十里にあり。

長城　州の北三里にあり。秦の將蒙恬が築處なり。

佑勝教寺　州城の西の隅にあり。唐の代の故刹なり。寺内十三層の巨塔あり。高さ二百八十尺。下より蓮華座まであり。其高さ百二十尺。圓圖百四尺中虛ありて内に佛像を供す。此塔の影塔の落ると考ふる。唐の貞觀七年の造營なり。五代。宋遼金元八代と經て始めてなり。塔の頂より瀋陽の城郭を見る。

○此寺白河の岸にあり。天気清朗なる日、塔の影白河の流れに映ず。

一の塚より小高所東門なるの中途にあり。東の二墓一州の武寧王徐達が葬る所なり。又唐の薛仁貴遷と伝ふ。此墓土を畳ぐ色をなして今枯木繁生し。蓋月此蔭を納涼をとるふ。又暑さが如し。

小の一墓は慕容氏將を辞せし墓なり。○通濟亭　州城の東南にあり。漢の王莽が建る所。

天圓圖百四尺中虛ありて内に佛像を供す。此塔の影塔の落ると考ふる。唐の貞觀七年の造營なり。五代。宋遼金元八代と經て始めてなり。塔の頂より瀋陽の城郭を見る。

○此寺白河の岸にあり。天気清朗なる日、塔の影白河の流れに映ず。

密武王廟　州城の東南潤うり。明の功臣常遇春の廟なり。遇春は明初軍を平げ遂に燕都を治む。明年虜兵後来る。遇春は燕兵を遮一てこれを拒ぎ、一州の人茶毒を免る。詔りして廟を建てこれを祭る。

○人物。今の貢少仲は通州の人なり。學を嘗て事に從ひ、常方の術法あり。宋又弦望孤遠より仲英て紗人場と多く遇う小帶教あり。豊絵をそ若孤厚んやとて。

○元の王利用は通州の人なり。世祖に仕へて、さるの處容くん。利用ある時勤ろ小敬天法祖爰軽仁民等の十餘ヶ条をそれぞれ。廉希憲ら若者ら人を治ろ。今の時文章政事兼備る者也。

湿餘河　州の西南にあり。漢ヶ都とちくび。其中ニカ所の物三ありて。源泉とも。其泉極て冷也。

銀山　州の東北七十里にあり。

○拳巒高く峰常ヶ氷雪層積て山色白銀のごし。因て名く。

○白浪山　二州の南十二里にあり。上ヶ龍潭。

○玉帯山　州の東北十五里にあり。

昌平州　順天府の北九十里にあり。漢ヶ軍都縣とし。上谷郡ヶ屬し。後魏に及て昌平縣と改く。唯の景泰の初め縣の東八里ヶ永安城ヶ築し。縣を治て州。

温泉　州の西南にあり。源泉極て温也。

○虎眼泉　州の西南十里にあり。

○一畝泉　州の西南にあり。廣さ一畝。

○百泉水　州の西南にあり。来地水

○抱甕泉　州の西南十里にあり。其泉極て冷也。

○冷水泉　州の西南にあり。源泉極て冷也。

○沙澗泉　州の西南にあり。

○氷雪層積て山色白銀のごし。因て名く。

○白浪山　二州の南十二里にあり。上ヶ龍潭。

○玉帯山　州の東北十五里にあり。

翠屏山

翠屏山古詩

我欲叩石鐘鶯起
洞中人
烟蘿杳無際空鎖
石門春
石洞何窈窕云是
仙人庭
仙人渺何許瑤艸
空自香
石洞窅且深花落
無人掃
仙翁去不還何處
尋瑤草
流鳴門書

九龍池

繞して踏くがごとし。○筆架山　玉笋山東北に五里にあり。高山上に泉あり。洌
なること玉笋の石を。○牛山　州の西半里にあり。三峯並び峙ち牛の
背の如きの名を。○郡山　州の西北二十里にあり。後漢・盧植此に隠
居し教授せしの地なり。故に名を得たり。「蜀の名山。峨嵋と郡と」○猿栗山　州の西二十里にあり。
峰巒の形猿の蹲踞するに似たり。○湯峪山　州の西北二十里にあり。峰の南に
湯泉あり。土人佛眼寺と。○駝蹕山　州の西北二十里にあり。山形駝の如し。
昔し蜀を出て西に向まんとし門あり。ふかれば則ち露降山より其の門の西の即聖峯屏山より。山上に泉九あり。石を繋て龍跡と名く。「甚だ
を生ず。溝く池をなせり。名けて九龍池と。池のこと亭堂及び僧人洞あり。一の石門
天成なして含く鏡るが如し。門上の石の鍾乳垂れ下り。石門の内掬て嚥く。石骨より道更く。源出
要険の地なり。淮南子に天下九塞あり。居庸は其の一と。南に重巒山畳障青と吾秀とを
山色窈冥たる「つぶ」。系師八系の一居庸畳翠と。元陳孚の詩、居庸萬馬繞山前未許蒼苔睡
仙人挽雨居庸関の道傍の一大石挽き仰ぐこと。晏然見説華山風日好何如移伴白雲眠。
狄仁傑祠　州の北。元の大徳の初年に建つ。明の正統三年に重ねて修す。

居庸関

重関深鎖白雲収　天際祇看紫塞
通流北抱龍沙遠　漢苑陰風
飄壮神州烟生睥睨千巖暁露
湿芙蓉重重自應秦五
彩龍文長傍日光浴

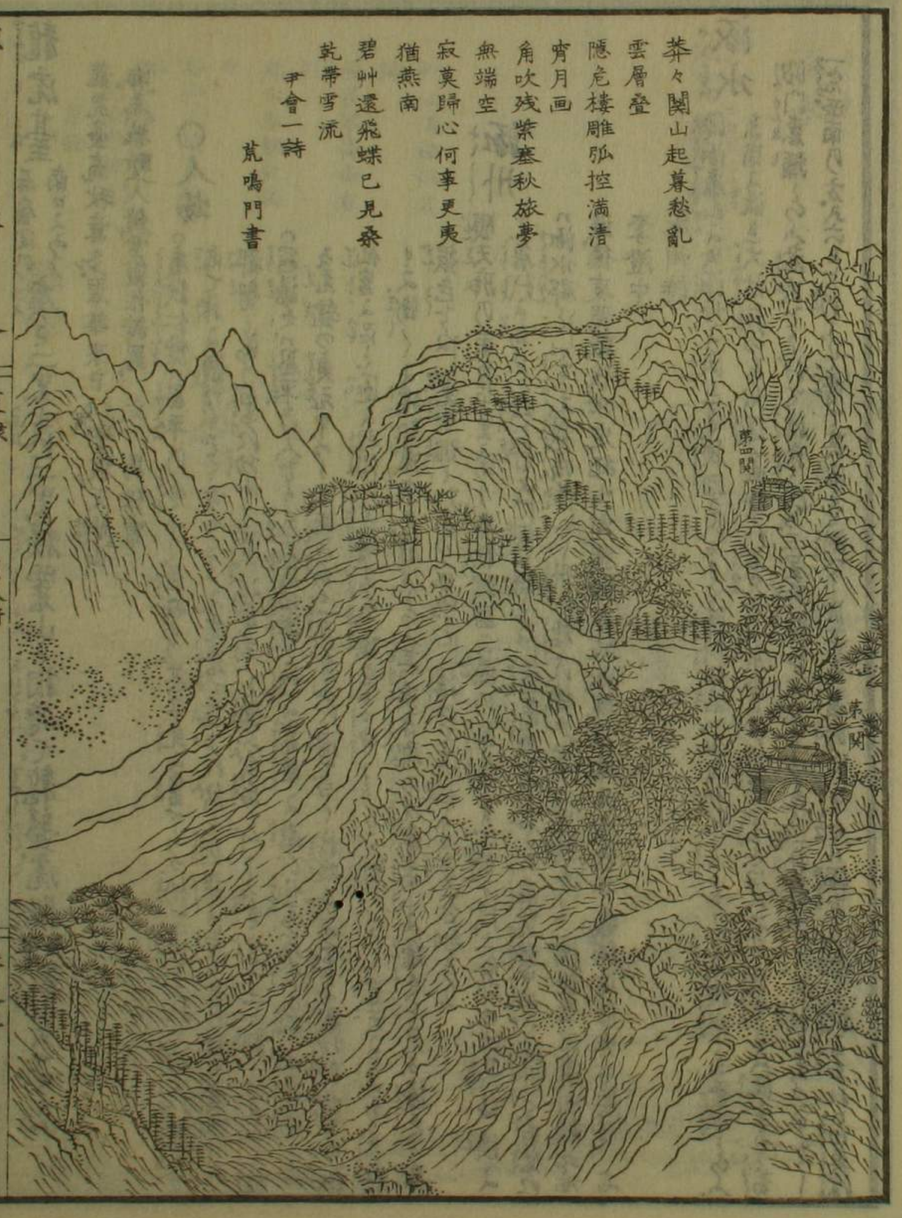
明曾棨作　粤室主人書

居庸關



莽々關山起暮愁亂
雲層疊
隱危樓雕弧控滿清
宵月画
角吹殘紫塞秋旅夢
無端空
寂莫歸心何事更爽
猶燕南
碧岫還飛蝶已見桑
乾帶雪流

尹會一詩



荒鳴門書

龍虎臺在衙圖之南口○有廣三里袤三里狹纍纍山與相連龍盤虎踞之形勢焉

龍虎臺高秋意多翠華來日似鑾坡天將山海為城墅人倚雲霞作綺羅　元　馬祖常

○人物　○唐狄仁傑以唐平之令方猛有威惠治政嚴明人不敢犯

都督婁師德以功封漢陽王○寇謙之以唐平之人好仙術成功興之終為高華所遊仙茅仙食以遊之高陽之法○梁陳之間昌平之人好仙術成功興之終為高華所遊仙茅仙食以遊之高陽之法

○元魏拓跋嗣以明元之長子初名木末字受德小字涉圭明元寢疾引崔浩等入受遺詔嗣即位尊浩為師事無大小咸諮而後行

○元魏拓跋燾以太武之長子初名佛狸小字白兔太武寢疾引崔浩等入受遺詔燾即位尊浩為師事無大小咸諮而後行

○元魏拓跋濬以文成之長子初名弘小字新興文成崩濬即位尊馮太后為太皇太后臨朝稱制

○元魏拓跋宏以孝文之長子初名恂小字元丑孝文崩宏即位尊馮太后為太皇太后臨朝稱制

涿州　順天府之南百二十里今為涿縣　春秋戰國為燕之涿邑　秦為上谷郡地　其後漢為涿郡　唐為涿州　又改為范陽郡　又改為涿縣　又為涿水郡　又為涿州　又為范陽郡　又為涿州　又為范陽郡　又為涿州　又為范陽



む。後人ハて此と採食ふ。味極て佳し。○案の舟、蔚人琴高郎と游ぶ。九二百年、一日、茅なる渦てらふ。吾涿水の中ふへて龍とならんと。即期と約し。そ。水底の其期又日某ノて金光の赤鯉ふ乗りて水中と出。留ること一月後。水へ入てヲ仏。○洗馬潭 州の西南十五里ふあり。胴徐水へ入てヲ仏。

智元陂 州の東南ふあり。此地涙美なり。秦こんと燕ふ求む。燕のなる丹荊軻を使し。智元の地図を奉し奉ふ。後狀貌原来似婦人ふ○乾隆帝御製督元陂攬古詩、提叙荊郷勇絶倫。浪将七尺殉強秦。燕雛未報輯餘言。濟寧害成延禍竟亡軀。馬遷作史失解駁。劉向傳經具政模。引水開田言則易。推行得當竟誰乎。

岑山 州の西南易州の界ふあり。其形岑と霞ふ似ふ。故ふ名く。○獨藤山 州の西十五里ふあり。名勝志ふ云。獨藤ハ即獨藤乃沈なり。獨と藤と相似ふ。誤ふ。藤ふ非ず。獨藤山なり。○石虎山 州坂の西ふあり。山上乃二石。其形虎のごし。

樓桑村 州の西南十一里ふあり。蜀の昭烈帝此所ふ生る。業ふ民舎の東南の角離上ふ。桑樹あり。高五丈餘。其ふ人ふ異ふ。玄徳ふ。玄孫ふ当ふ。故ふ此所ふ於ふ。○蜀志ふ曰。先主ふ。舎の東南ふ。大桑樹ふ。生ふ。高五丈餘。遠ふ望ふ。車蓋ふ。ごとし。其ふ言ふ。吾必ふ。此ふ。貴人ふ。至ふ。ごと。

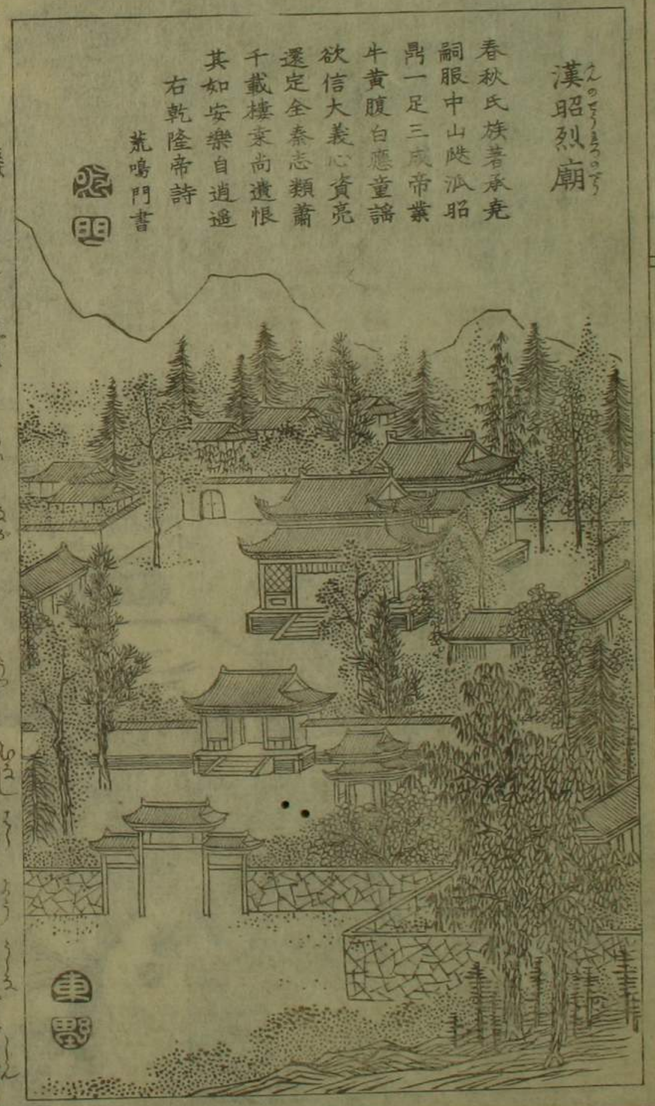
漢昭烈廟 樓桑村ふあり。○盧植墓 州のふあり。

行宮 涿州城の南ふあり。乾隆十六年帝南方ふ巡狩し。涿ふ駐蹕ふ。彩ふ建ふ。

漢昭烈廟

春秋氏族著承堯
嗣服中山陵汎昭
鼎一足三成帝業
牛黃腹白惡童謠
欲信大義心貪亮
遷定全秦志類蕭
千載樓桑尚遺恨
其如安樂自逍遙
右乾隆帝詩

荒鳴門書



永濟橋 卅城の小巨馬河を跨る。此橋明の嘉靖の流を南へ徙す。空く橋の用を失つり。清の乾隆二十五年、敕して彩橋と建る。涵洞十八長さ二百丈有奇。橋の南表とる小坊を建て、御製の碑文と奉り、盧溝橋の御碑と百里の輝映し。尚代燕南の雄構と。

智度寺 卅城東小の隅さあり。淨國のまさ十丈石基のまさ二丈。寺卅の東南二十又里さあり。寺内さ崇厚を表し。寺門のころ石あり。擔り食くさ味甚さ美なり。

○善壽寺 城東三里さあり。淨國のまさ十丈石基のまさ二丈。淨國二百步。涿卅の山川。嘯地一望俯さ目もにあり。○佑聖

○人物

○蜀の関羽、河東解の人。字は雲長。幼き時、郷里にて、嫌悪義を尚び、喪んで、兄氏春秋を閲じ、乞命して涿郡さ遊ぶ。附さ先を、衆と募て義巾の城と伐んこと。関羽、張飛、ともに先を、と聞く。先を、関張の二人を国を異にするの、巴蜀を安るを以て、羽を拜して、荊卅の鎮さしむ。威震ひ、風靡ふの震ひ、世さ虎臣と称す。

○蜀の張飛、涿卅の人なり。関羽、と、ともに、劉備に、仕へ、軍さ巴西の太守さう。羽軍さ拜し、西郷侯さ封ぜ。飛雄壮威猛万人さ敵ぶ。飛と、涿ぶ。○蜀の



蜀開羽之像

縮摸馬元欽圖

叡豊立效所以義人
門庭以邦姬名流傳
火筵経越女徒示
於美辭名金数玉振
紀亦則語史





練吉巡江國重臨
四字
城軒拯典藻飾几
席有
餘清與與新春發
心依
古月明金吾何必
禁爆
竹喜聲々
右乾隆帝詩
鳴門書

直隸名勝圖會

永濟橋





霸州　順天府の南二百十里にあり。漢代此地を勃海郡に屬し、唐代の置津関を長後関の時始て霸州を置き、霸者の韓令坤をして此州を守しめて雄覇の義と云ふ。編戸三十一里。宋代の信安軍なり。其山喬松脩竹数十里を繞り、内に高墓の郡中の勝地と稱す。

霸州城の西燕の昭王の築く所なり。漢の平曲城は州城の東三十里にあり。宋の信安城ありと。

南山　州城の西七十里にあり。狼瓜城あり。

○莫含山　州の南十八里にあり。むかし莫姓の人含姓の人二人此山に住り。名あり。

島の峙がごし。○雁頸山　州の東南三十五里にあり。此山

州城より京師に到る間二百餘里。其間數流せる河水最多し。拒馬河、瓦河、沙河、塘河、河、交河、通濟河等いふ〳〵への燕趙の間を滙て東に流れて丁字沽に至り、其河邊より北越の武霊王其河邊より北と築き、民家水漲の災を免る。堤の長さ三百餘里。多く楡柳を植て長堤の固めとせり。

州城の中井七十二あり。宋の楊延朗が鑿る所なりとぞ。

楊延朗此井の事を演義に載せて、楊六郎井と名づく。

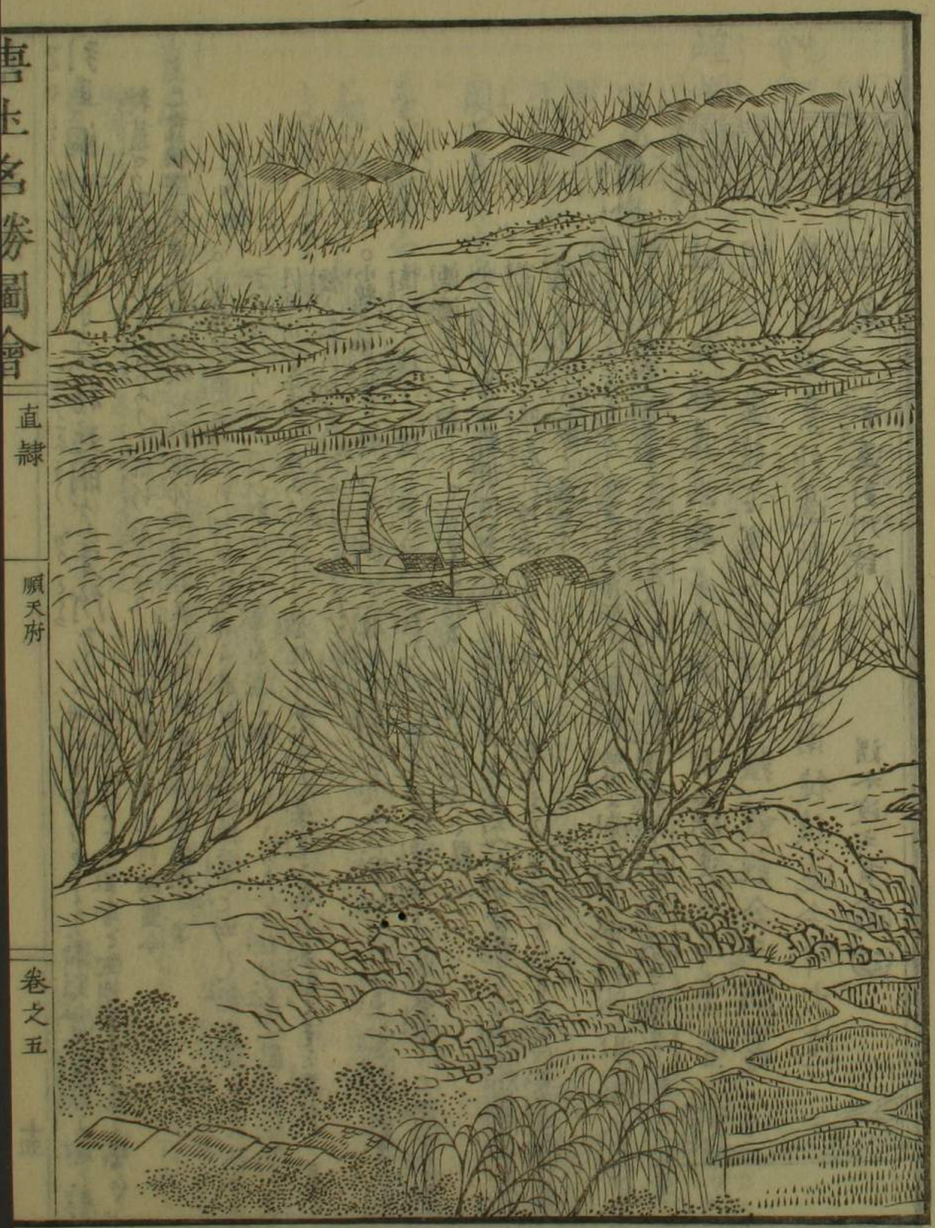
○蜀の綿雍縣の孫僧當、漢の末に州の人なり。

○南北朝の盧觀、范陽の人なり。後周に舉てよく博通し、天勅祀を治し、九朝廷の憲章に乗興法服を製す。不律呂歩刻漏儀象をこれを始めて制す。

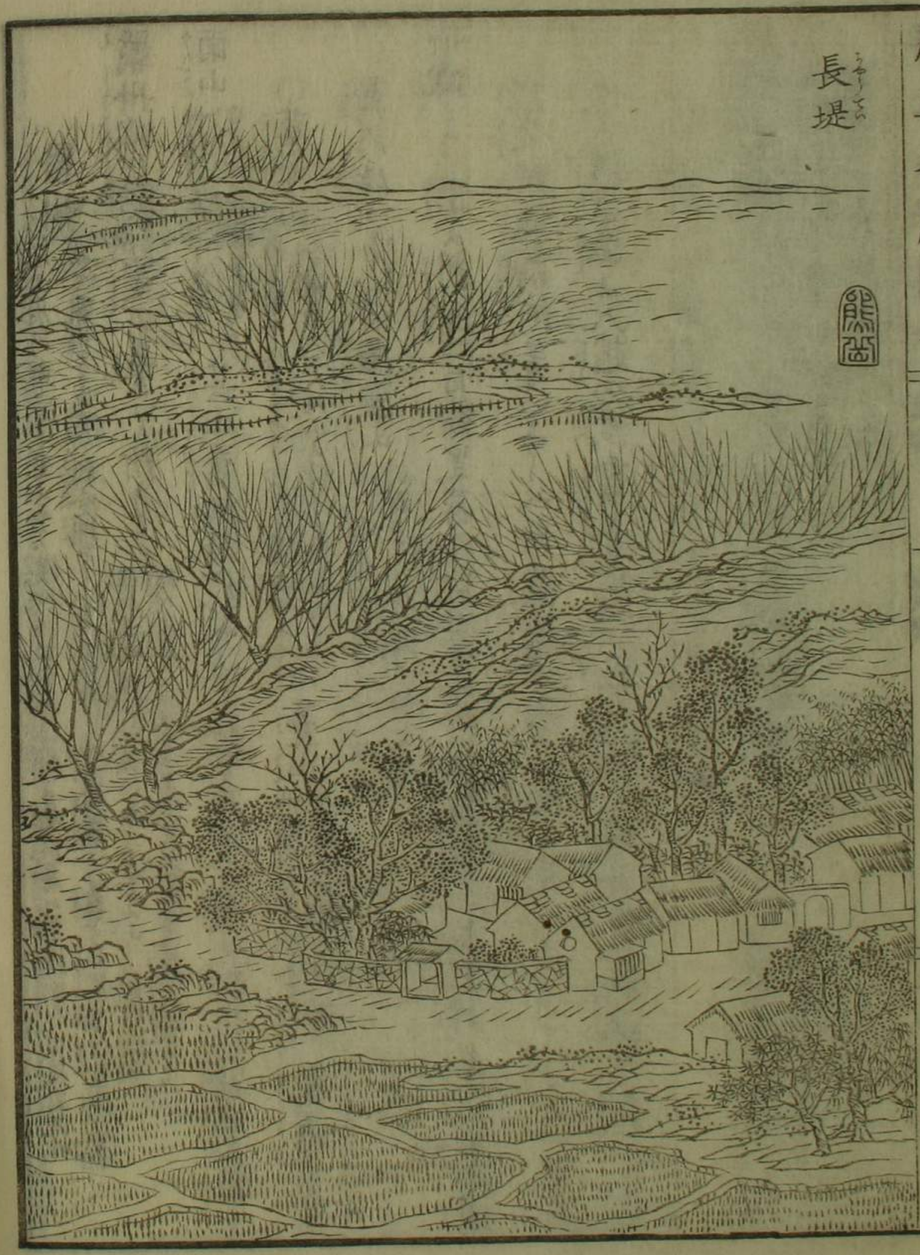
○南北朝の盧觀、范陽の人なり。賢良方正に舉らる。帝侍医に謂て曰く、道術の若き人なし。と稱め嘆くこと如何張元進で曰く、此僧久しく宮中に入て言のごし。皆左相應ずるあり。燕國ろう封ぜらる。

○寇の邵雍、范陽の人なり。幼高明英邁天下の書を於て博覧ならざるなし。李之才に従ひ、後ふく〳〵性命の学を学ぶ。天地の運化古今の事変萬物の性情をとろる處なく窮究す。天のおて術望極綾世の淵奥と稱し、て振古の真儒傑と望つり。

○盧氏、范陽の人なり。よく書を好む。篤学孝悌にして書を博覧し、旁ら教授に漢の基、良山東に聘ず。其ととして若き過ち盧氏死なんで、其民良好をとり、小政が暗凶悍獰をえて其面と焼くる。盧氏竟に屈せず。



長堤（ちやうてい）



引馬洞 州城の北七里にあり。楊廷朗が穿所なり。世伝州城の中より洞を穿ち引馬を出すと。明王風雲引馬洞詩輿圖今斬蕨ぜる形あり。今は引馬洞と称す。

已盡燕雲。宋業何當界水分。野廣沙平陵谷異。居民猶說六将軍。梁朝小字

○人物

○今の薊州は唐の幽州の刺史の治せし所にて。遼より以下四代薊州と称す。

○州の東南の境に三百里にあり。秦漢の漁陽郡にして。隋の初め薊州と改む。元後薊州と名く。明清共に薊州と名く。編戸十五里。

薊州

北平雄鎮冀幽藩。千里潮河朔漠連。司馬高臺聞夜吹。盧龍古塞入秋煙。開疆競說分三衛。籌國何因棄外邊。歎息寧封南徒後。遂令烽火達甘泉

渭水淺文貫

○沽河 州城の南三里にあり。泊水と州城の北に十里にあり。白龍江と州城の南七十里にあり。抱元山の下を経る。

會泉河 州の北にあり。地泉湧出流三里馬甲河と為る。○龍池河 州の南

崆峒山 州城の東北にあり。一名翁山 黄帝嘗て道を問ふの天石あり。其形状の如し。即世所云山頂上に麻君の廟あり。○甘泉山 州の西七十里にあり。此山中の泉味甘にして甘し。故に名く。山頂上に一の巨石あり。揺ぐ如く動せば輒ち動く。俗に称して龍潭二の雨を祈る。

倶に薊州の内と為る。○盤山 一名盤龍山 州の東北十三里にあり。高さ二十四級周り百餘里。磅礴として盤桓を。

周て名く。小面に峰巒擾絶削るが如く。紫蓋峯の名あり。中に最高きもの

を上盤と為す。頂上に一の巨石あり。揺ぐ如く動せば輒ち動く。俗に称して龍潭二の雨を祈る。

岡古樹蒼花として日影をうつす。昭石実記して幻路岩雞一州の人家を指点す。

上に古寺あり。其の南の巔に一の小嶺あり。砂礫磽确。

○古地 按ずるに薊州城の南三里に懐山あり。其の沽水に入て又南安樂縣の古城の東にとぐる。

安樂縣の古城の北郎ち薊州山上にあり。陳子昂の詩の白。北登薊丘望。

薊州山上にあり。陳子昂の後を継ぎて封ぜて安樂公と為す。郎ち此なり。

崖府君祠 永古軒轅臺。尚想廣成子。遺跡白雲隈。

呼寺故云。石危秋鷺上。灘遠夜僧聞。汲井連黄葉。登臺散白雲。焼丹勾合漏。無處不逢君。

○桃花寺 桃花らんまんあり。寺の壁の詩に刻む曰く。舊有桃花樹。



盤山

蒼松亂插連雲石
石上苔痕兩行跡
拄杖來從飛鳥過
下視蒼茫遠烟碧

智朴盤山詩



始發良鄉
上馬頻傾惜別杯薊門西去亦悠哉地隨督亢依山盡河控秦乾入塞來
老去尚能持漢節時清應不重邊才氷霜漸迫君門遠東望長安首重回
荒鳴門書

顧大申

○人物

○漢の張堪、漁陽の太守たり。奸猾と掃攘、當罰必信あり。橋田と開き農桑を勧め、居材を儲う。而して務めて寛恵、百姓安んじ、之を号して曰く、桑無附枝麥秀両岐張君為政楽不可支。

○宋の大帥趙蕃、劉人なり。幼より書を読むを好む。書と為りて儻奇、而して学ぶ所を以て之を施す。

○元の曹復亨、涿陽の人なり。幼うして学を好み、博く経史を通ず。時に兵乱あるに当りて、妻子を隨うて、燕南の地に避く。後ち燕氏に遇う。復亨、為に経を講ず。燕氏、之を敬礼す。

○柳氏の劉州の人なり。戸部の書、幾野に出でて、柳氏、独り家に在り。門を閉じて客を謝し、専ら経史を玩う。人称して曰く、我が二十六にして寡なり。今既に老いたり。而して一経を得ること能わず。記と為すに足らざるなり。

良鄉縣

順天府の西南七十里にあり。後魏、良鄉を改む。其後、廃置を屢〻経て、縣と為す。

孤獨河

縣の南四十里にあり。

盧溝河

縣の南より流れ、龍門口より出で、縣の南を流れて、渾河と会す。

一名、小清河。

○龍谷泉

縣の西北にあり。泉の発する処、深さ数尺、広さ丈余。

伏龍岡

縣の西十里にあり。

其形蜿蜒龍の伏すが如し

周り数百歩、龍の脊の如し。一名、伏龍岡。

○天津關

縣の北にあり。其の天津橋に在るを以て名づく。

○南涉溝

○北涉溝

俱に縣の

郊勞臺

縣の南にあり。乾隆己卯の年、回部（卽ち厄魯特の別種）を蕩平して、疆を闢くこと二万餘里、庚辰三月將軍兆惠等、振旅凱旋して、此に至るを以て、士を臺上に建て、之を労す。此日、差あり。且詩を製して勒し、碑を勒して、墓の表面に建らる。

宏恩寺

縣の南にあり。層樓傑閣、崇飾壮麗、我國の士あり、燕の昭王數を拝して上将軍と為す。樂毅即ち、記を周垣に掲げ、以て之を送る。蒼頡、漁陽人、史籀と為す。

樂毅之墓

縣の南三里にあり。○樂毅、五國の兵を率ひて、齊を伐つ七十餘城を下し、齊の宝物を悉く燕に輸す。

○人物

○遼の楊績、卽ち良鄉の人なり。仕へて参知政事に至る。

○金の活孛、人呂の邪正を論じ、終日、何ぞの代か変ぜざらんと。

○明の王之誥、邪正を弁じ、天下の事を以て己が任と為す。

○同じく梁德壯、卽ち良鄉の人なり。仕へて参知政事に至る。

○同じく

郊勞臺

過郊臺
庚辰曾是勞旋師
叩覲臺陳得勝
旗自此西瀛盡来
賀每循南路引餘
思固資衆力成勲
績実藉元戎善指
麾享澤何期騎箕
尾不禁觚境一生
悲

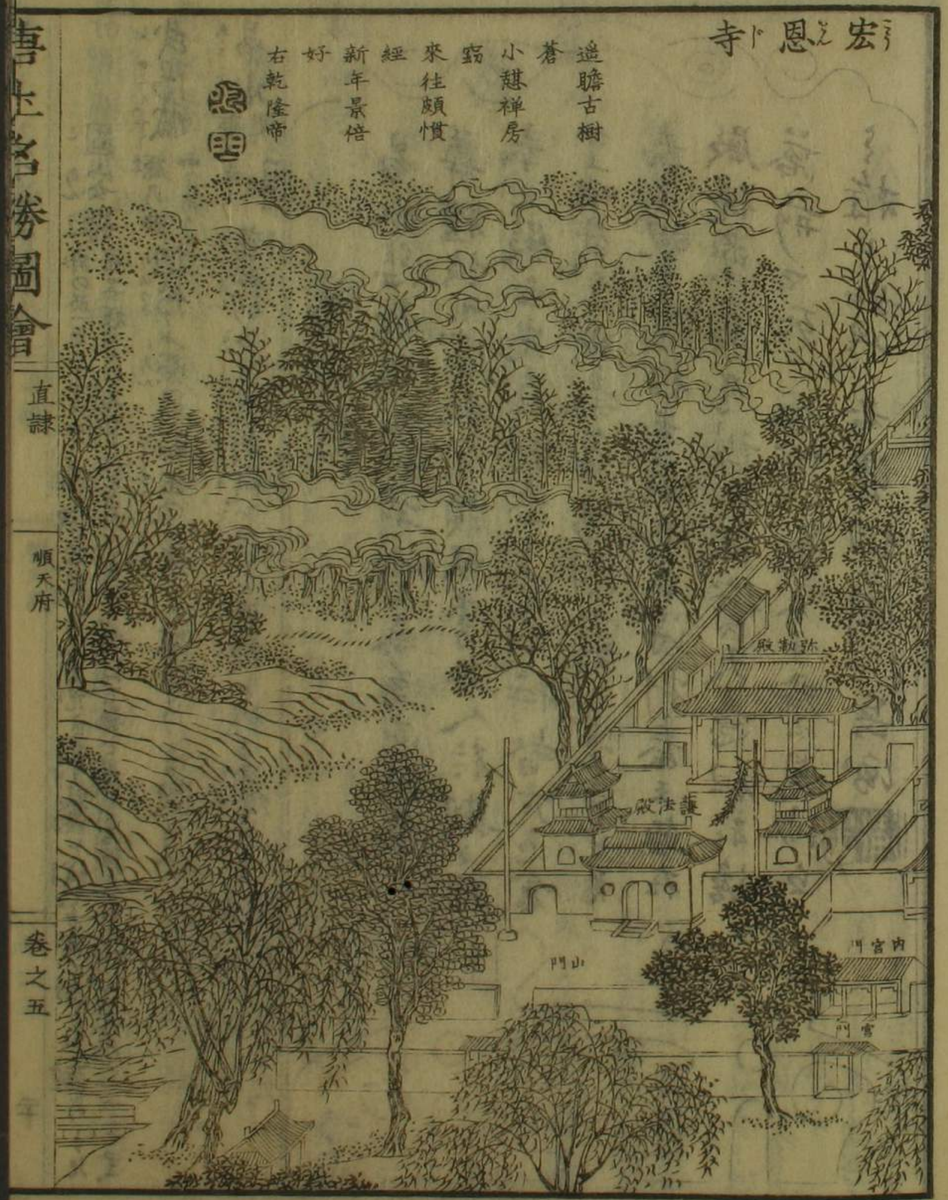
右乾隆帝詩
鳴門書

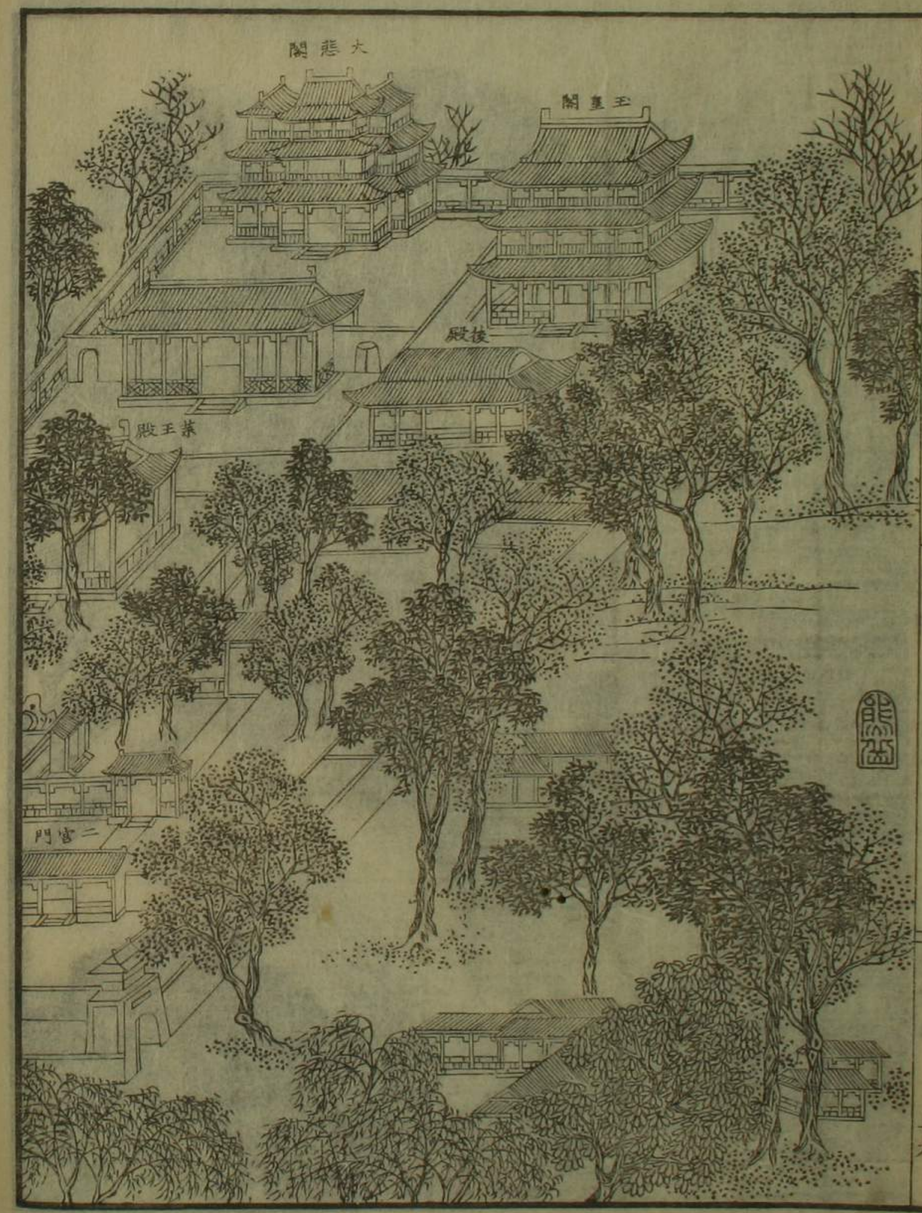




宏恩寺

逸騰古樹蒼
小趙禪房窈
來往頗慣經
新年景倍好
右乾隆帝





固安縣 府の西一百二十里にあり漢の方城縣の地なり縣の西に桐侯の燕の昭王の築く所ありと云ふ城は久しく廢して縣を移して今に至る

易水縣の南より荀燕のところに流る丹利軻と送て悲歌を作る處なり易水の源は山西の廣昌縣より出

易水行

易水悲歌動天地荊卿入秦爲燕使秦王
尊禮設九賓殿閒顧咲旁無人於朝之頭
秦上殿亟宪直射秦王面取持督亢色倉
皇咄哉年少秦舞陽固窮不變見七首
秦王睨之環柱走荊卿不得刺秦王無在
殿提藥囊爲謀不成實天意祖於掩
落前々死一死可以報太子君不見沙丘
之権如此若梁侯嬴

長洲 文徵明

○人物 晉の張華の方城人なり方城の即今の固安縣なり學業優博圖緯明方の書洋洋盡一国一浦く幸ろの日岩に於て功をあり廣武侯に封ぜらる○南山朝の張弘策の方城の人なり梁の武帝蒲團を策に拜して人をとの已後北湯縣侯に封ぜらる

永清縣 府の南一百六十里にあり漢の益昌縣と改む天宝の初年永清縣と改む

拒馬河 縣の南水源は蔡乾河より分流す水經に拒馬は代郡の深山より出西南へ流る此を守て石勒を拒ぐ故に拒馬の称あり

東安縣 府の南一百又十里にあり漢の安次縣と云元代に東安州と改む縣名は路に隸し明に縣に隸す編戸十八里

東沽港 縣の南又十八里にあり漢の雍奴縣の地潞河より分流す唐駱賓王由易水過東沽詩此地別燕丹壯髮上衝冠昔時人已没今日水猶寒（垂楊河ともあり）東沽港の口河の左右岸を夾み蒲楊水を繞り村里の向日葵多し

渡 永清縣の南より漢の元狩二年此橋を建つ帶の劉根此を留飲し

范江橋 舊の安次縣の南より流て東河を跨る

帶劉根墓 縣の東二十里幽州の刺史殷匹磾根を推て盟をとる并に石勒を討て

菊坡之屯以後匹磚ゞためゝ喜せらまてく此ゝ葬る。

○人物 金の劉徽柔い安淑縣のく人ゝう。進士ゝ第ゝ。淵明の父ゝ始めゝ官ゝ就ゝ。後ゝ縣中の人遠ゝう遠い敎てまうゝを得ゞ者ゝ目ゝ称う。みゝ卒ゝ祠ゝとゝゝゝ刻ゝて其德ゝ頌せゝ。後ゝ知ゝ河東南治ゝ轉運使ゝ。

香河縣 府の東南一百二十里ゝあゝ。かい武清縣の地ゝう。遼ゝ安次ゝ屬ゝ。安き居民ゝ蓼集ゝ。

拔罾口河 縣の西ゝあゝ。源ゝ孤山ゝう出ゞ。白河ゝ入ゝべゝ。○駱駝港 縣の北ゝ里ゝあゝ。源ゝ白河ゝう出ゞ。縣界ゝ流ゝて白河ゝ入ゝる。○百家灣 縣ゝ小ゝ。水源ゝ知ゝ。白河ゝ引ゝ水ゝ竭ゝ。昔ゝ百家ゝ居ゝ。灌ゝ。今ゝ。凹雨ゝ霑ゝ。時ゝ。ゝゝ。蓼秋ゝ同ゝ水ゝ合流ゝて宝坻縣ゝ界ゝ。縣界ゝ流ゝ。○龍灣 縣ゝ南ゝ十里ゝあゝ。俗ゝ龍ゝ。經ゞ七里泊ゝ入ゝる。遼代ゝ漕運ゝ。ゝ。

三河縣 通州ゝ東七十里ゝあゝ。漢ゝ雍ゝ縣ゝ。三河縣ゝ。七渡ゝ魏ゝ。縣ゝ。其ゝ源順義縣ゝ界ゝ。流ゞて三河縣ゝ界ゝ。

七渡河 一名黃頭水 流ゞて三河縣ゝ界ゝ。

雲山 縣ゝ中ゝ。山三面ゝ水ゝあゝ。清浏ゝ左ゝ。

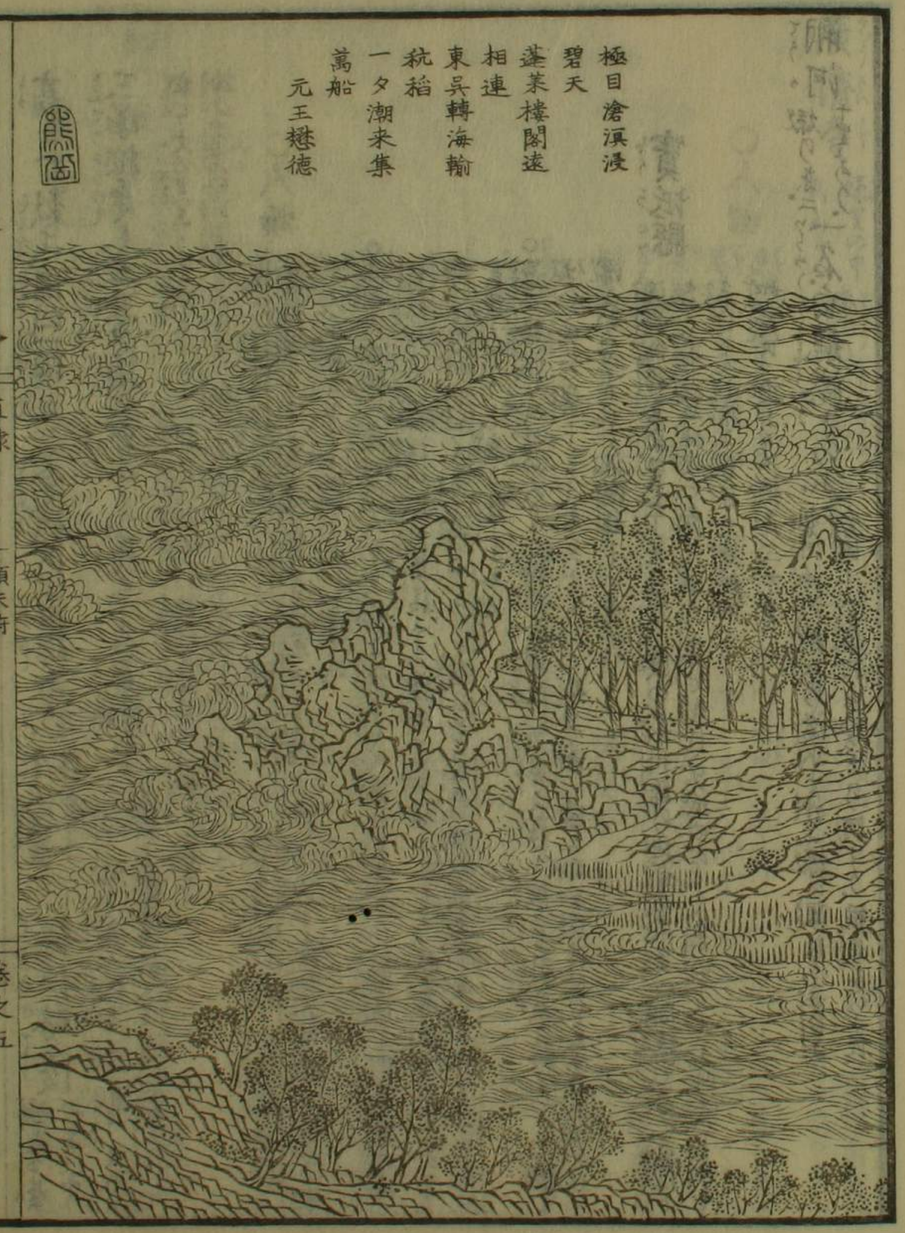
を養ゝ。○聖水山 縣ゝ西北三十ゝ里ゝあゝ。山上ゝ。水ゝ。眼疾ゝ。を愈ゝ。○駝山 縣ゝ北ゝ。歌駝ゝ。

ゝ。ゝ名ゝ。○錯橋 縣ゝ東ゝ。錯橋臨七渡山西遶洵陽地脈沿溪潤春流到海長沙容閒麗景瀾彩弄晴光川上情可極東遊憶故鄉明劉希夷

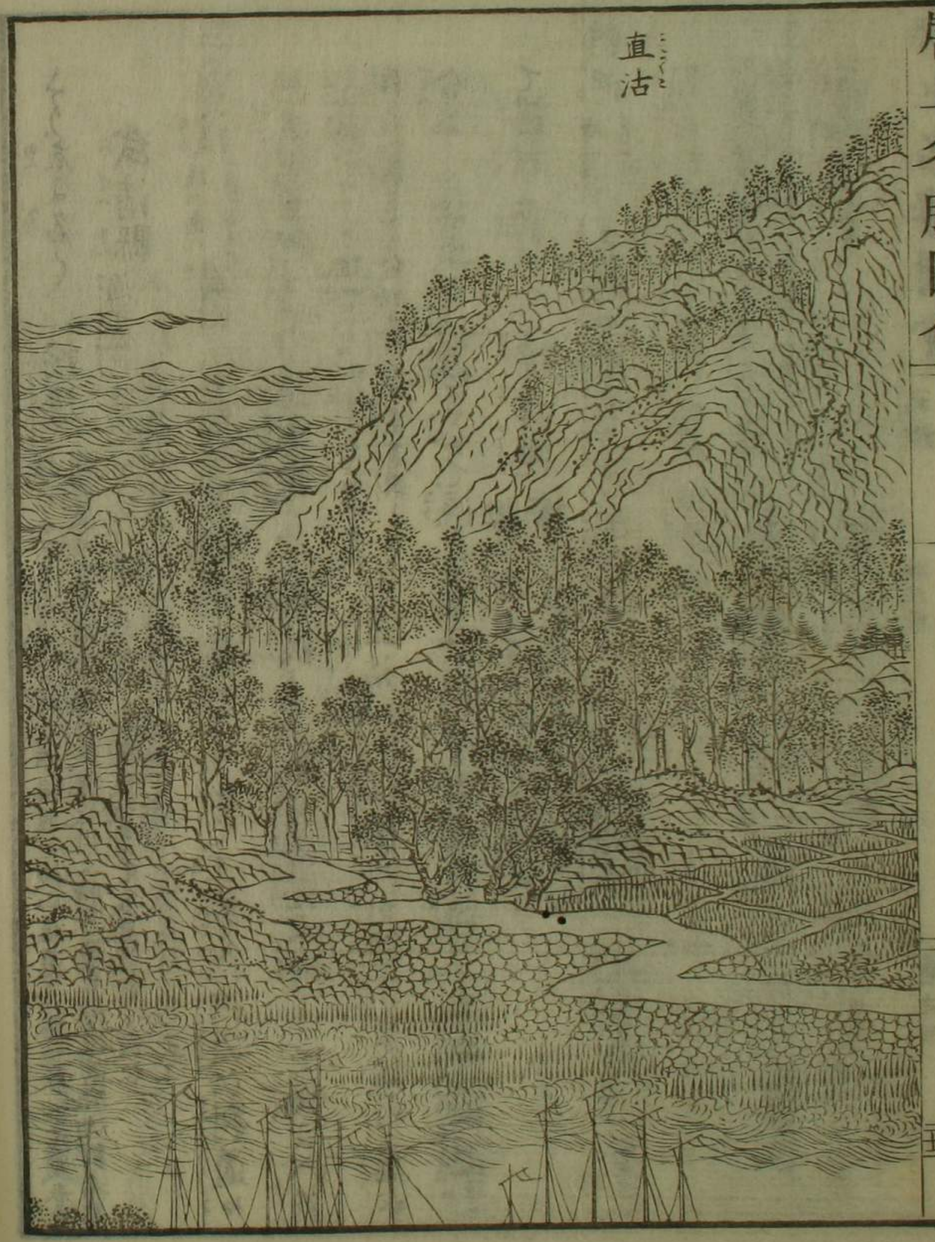
武清縣 通州ゝ南ゝ。今ゝ。ゝ。周ゝ。明代縣ゝ西北ゝ。

三角淀 縣ゝ南ゝ。十里ゝあゝ。周回二百餘里其源范蠡ゝより出て王家陀河及び劉道口河與兒里河ゝ等ゝ諸水聚ゝ。三角淀ゝ。ゝ。ゝ。三角淀ゝ。ゝ。ゝ。

極目滄溟漫
碧天
蓬萊樓閣遠
相連
東吳轉海輸
秔稻
一夕潮来集
萬船
元王懋德



直沽



高さ十餘丈周囲一項上に今代の石碑あり。金人滋獲の墓の右なり　○得仁務陵　唫獲の墓のあたりの右なり　○得仁務陵　唫獲の墓

三塚相並ぶ。土墓極て小さく。其中よき古洞あり。洞中暗し。故人燭を乞て洞中に入る。洞深く遶きのかざり已に数里はして。忽ち大の光ありて明らかなり。種々の器物什物燦爛たる物ありと雖ども。手を触れ得ず。光の方へ投ずれば光の遊の如く。光能きうるの如く。拾ひ去光の方へ投ずれば光の遊の如く。光能きうるの如く。拾ひ去

○人物　○漢の湯殊の湯泉州の人なり。学問博く。中常侍王甫等の奏達ありて。尚書侍郎と為る。後に司隷校尉と墨孔暗し。中常侍王甫等の奏達ありて。尚書侍郎と為る。後に司隷校尉と

十人を徴さんとし。盡く。これを辞す。

○三國の田豫の雁奴の人なり。魏に仕へ。七陽の太守と為る。南陽を鎮る。盗賊悉く

詰伏す。後徴て尚書と為る。後徴て尚書と為る。徐晃侯を得んとの令。

曰く。年高七十にして侯を得んと欲す。徐晃侯を得んとの令。

○遼の張澄。武遂の人なり。海内を遊学し。周易を精く。徴の数度も辞して仕へず。

○遼の張澄。武遂の人なり。海内を遊学し。周易を精く。徴の数度も辞して仕へず。

寶坻縣

通州城の東南一百二十里にあり。漢の泉州縣の地。金の大定の間縣と為て寶坻と名く。元初此地墟と為る。國の寶と為るに因て名けん。小稚と曾孫と庶姓と。

潮河　縣の東二十里にあり。一名白龍港と云ふ。梨河。洵河。鮑丘の諸水と合流して。遼河に入る。この河より。狼魚をいだす。

廣濟寺　縣の東の中にあり　遼の重熙五年の立

○人物　遼の重熙年中常在と云ふ者あり。寶坻縣の法を修り。孫尼佛の舎利建其傍らに菴をむすび経を誦して佛を仕へ心を潔一道に入る。数年の後奮中より破裂して化す。茶毘の日身より焼ること灰のごとし。加之後傍其屍をうけて孫尼佛の側に葬む。日を経て其髪再び生じ人物奇異なりとて。前後ともに来り観る。人多し。

女子あり。これを聞て其況上を慕ひ。髪を剃り尼と為る。法名を得仁と云ふ。

○今の馬恵の寶坻の人なり。遼の大康の間進士に挙られ。永清の令と為る。治を布て卿也。

○今の安平の人なり。粗書を好み。騎射を善す。材と為し。旋一と称む。奥結

○今の安平の人なり。粗書を好み。騎射を善す。材と為し。旋一と称む。奥結

○今の安平の人なり。粗書を好み。騎射を善す。材と為し。旋一と称む。奥結

寧河縣　寶坻縣の東南八十里にあり。漢の泉州縣の地と為て。此縣と為る。

紀心堤　縣の東南百二十里にあり。秦の始皇帝の築く所と云ふ。

○盡基　縣の東南八十里にあり。後唐の劉守光の墓と云ふ。

「○大覺寺　縣の東四十里にあり。寺内に石幢あり。高さ三丈七級あり。雕鏤尤精巧。

「○歌馬墓　縣里の中にあり。相伝ふ。金の葬る墓上の馬と云ふ。

順義縣 昌平州の東小六十里。秦の上谷郡の地。唐始めて歸德郡と爲す。遼改めて順州と爲す。明の洪武の始め順義縣と改む。國朝因之。編戶廿七里。

潮餘水 縣の西南を流れ、潞河に合す。

〔○孔山 縣の南二十里にあり。山上に孔穴多し。故に名く。○龍山 縣の南二十里にあり。山上に龍泉あり。故に龍泉山と呼ぶ。○牛欄山 縣の北二十里にあり。山の中峯に洞あり。洞の中に舍羊多く、時として群れ居る。故に名く。○史山 縣の西北二十里にあり。山の狐奴山と呼ぶ。漢の時此に狐奴縣を置く。蓋し山に名くるなり。○呼奴山 縣の東北二十里にあり。山上に呼漢の廟あり。山下の村を呼漢村と名く。○人物 樂志仙人。檀州の人なり。遠遊を樂しむ。此に於て「一葦を命じて捷しむるふ」と。故に檀の字に從ふ。虎豹馴擾して其の側を援る。年九十餘にして死す。

密雲縣 昌平州の東北百二十里にあり。古の檀州なり。後魏の時此に密雲郡を置く。明朝之れを仍る。縣治十里永寧衛の東にあり。編戶十九里。

廣洌水 縣の東北を經て潮河に入る。○通人溪 縣の東北石盤峪にあり。石盤峪の內に龍潭あり。百步許にして飛石數十丈の如く懸る。龍ありて時に現ると。

密雲山 縣の南二十五里にあり。山中に白檀樹多し。故に名く。○白檀山 縣の南二十五里にあり。山中に白檀樹多し。故に名く。魏の曹操百檀を伐て鳥丸を征せしは此所なり。○清都山 縣の東北六十里にあり。山上に清都觀あり。故に名く。



古北道中
亂山環合疑無路
小逕
縈回長傍溪髮鬆
夢中
尋蜀道興州東谷
鳳州西
蘇轍詩



古北口



○霧霊山　縣の東北百里あり。山上祥光を擁するの霧のごとし。毎歳六月六日必現ず。

古人期として、これを候ふ。山上寿慶洞と名く。下の即慶洞水。

仙蹟と称す。遠近遊客多し。

○聖水山　縣の南十里あり。山石の間より湧出て瀑布となり、崖より落ち、其勢雷の如し。

龍女廟著し。龍泉河水源なり。

○治山　縣の東北二里あり。山石の間より湧出て瀑布となり、崖より落ち、其勢雷の如し。

傍ら奠崖洞あり。

○聖水菴　縣の東北十里あり。

傍ら奠崖洞あり。

泉出て、瀑布となり、崖より落ち、其勢雷の如し。

○金溝鎮　縣の東北にあり。縣の王需が上る奏丹の幸を順州より檀州まで溝渠を通ず。

平曠これを金溝渡と号す。

古北口　縣の東北二百二十里にあり。此地左右の崖壁聳へて、其中路僅に車一を入れしむ。

洞水急流をなす。巨石磊磈として

楊令公祠　古北口寨の将楊業を祀る。

避暑痕一敗可憐非戦罪太剛嗟獨畏人言馳驅本為中原

用。嘗享能令異域尊我欲比君周子隠誅彫聊足慰忠魂。

○漁陽城故址　縣の東南にあり。秦圓石を鋳

一に作る。

世称す。

○人物　漢の王霸が漁陽要湯の人なり。要湯縣の即今の密雲縣の内なり。霸の初め狐奴の令となり。光武帝に従

徧裨軍を率ゐて、後ろを可空の挙ら。

懐柔縣　周平州の東北一百里あり。

ず。天宝の初め漁陽縣と改む。今の縣は漁陽縣の地なり。

紅螺山　縣の北十里あり。高さ二百餘仞。山下

に潭あり。潭の中に二の嶼あり。其いろ

紅にして、なお螺の光螺を吹くが

如くなり。

○黍谷山　縣の東北十里あり。

密雲縣の界に隣る。一に燕谷山と名づく。劉向云燕の谷あり。地寒にして黍

黍稷を生ぜず。鄒衍律を吹て黍

と呼ぶ。ここに於て黍谷と号すと。衍が

廟の基今尚

山の南にあり。

看花臺　縣の北二十里あり。遼の粛后

暑を此臺上に避嘗て此に

登て花を看る。



房山縣　涿州城の西北二百十里あり。良郷宛平薊陽の三縣の地なり。石壁此地を遶

遶ろ金の時析ろ縣と改む。房山縣と改む。戸十一里。

龍泉河　源縣の北大房山の下より出。

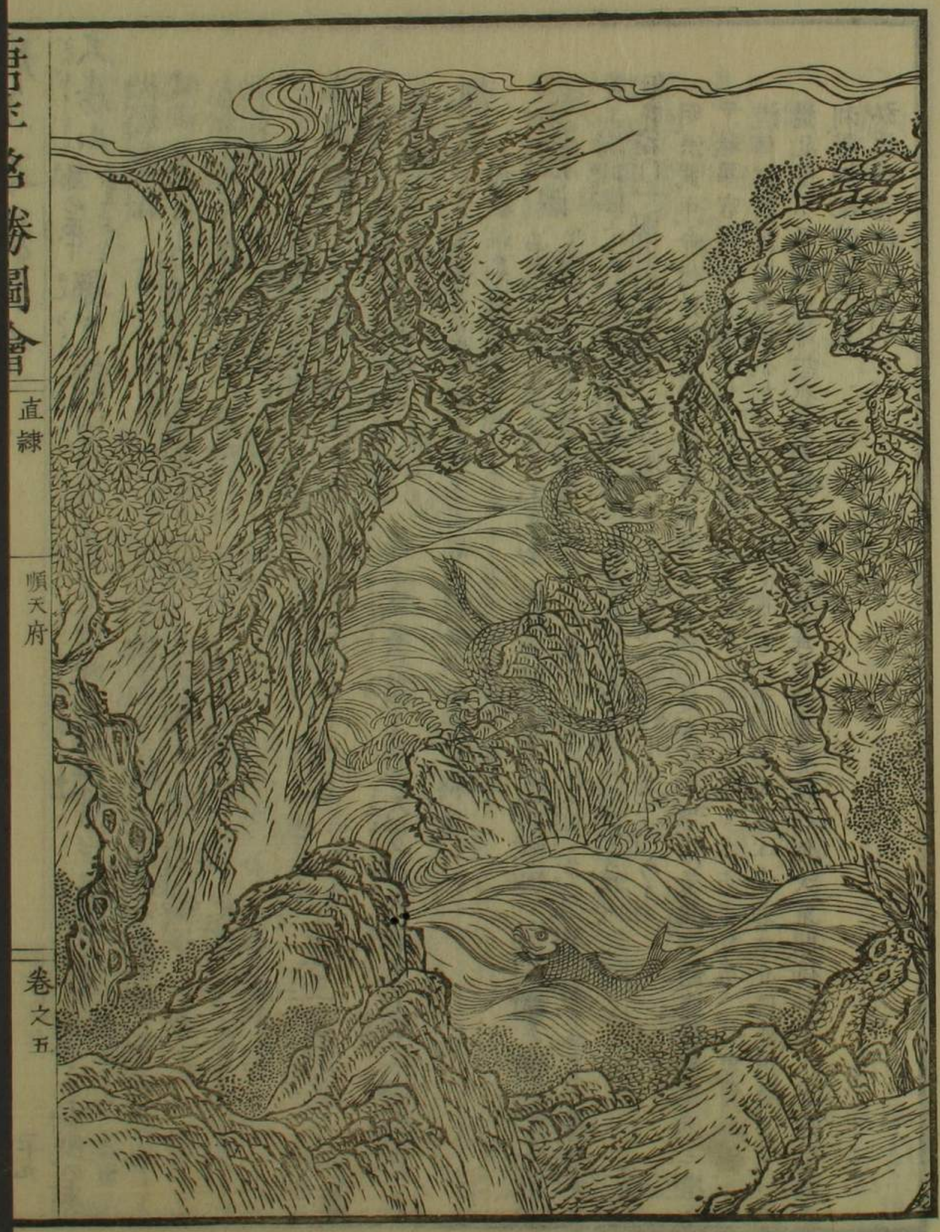
西南へ流て琉璃河と合す。○挟河　縣の東南にあり。○廣陽水　縣の北にあり。



靈寒澈骨音猶冽
喜嵐未了窓雲白
玉皇敕賜千年雪
疑化人招上果山
横塘書

髮髻山





孔水洞



大房山　縣の西十五里にあり。縣中諸山乃内より旅て唯此山雄峻にして秀いで高し。古碑に幽燕の奥室也と山の西南に伏龍泉あり。龍臧浴と名く。○孔水洞　泉湧出深さ三丈許其中より清楽の聲あり。攀ま往く〻先と雲唐の洲或人此洞中より投と深く其源と極めて深く〻入り白龍あり時々出現して雲雨を興すと云ふ。洞内に石刻あり。此洞泉を流して雲水洞と名く。○紫金山　縣の西南三十里にあり。上に王室洞天の二字漢の隷書にて刻せり。峯巒秀拔して金の如し。故に小西天と稱す。○石經山　五十里にあり。山高く峯巒秀拔して金の如し。故に小西天と稱す。下に雲居寺あり。明表廷玉石經山詩。疋馬西風古樹邊。那知此處有西天。山藏石刻五千卷。寺號雲居八百年。

○石經洞　石經山のあたりあり。隋の大業年間法師静琬らの名僧深く石を鑿て洞を穿ち。佛經を刻して義を後世に傳んと欲し。甚しき絶壁ぐるりを嘗く。金遷七歴て漸く成就せりと云ふ。洞中に石碑あり。

明洪武中命僧道衍往観之留詩曰。載々石經山。蓮峯吐金碧。秀氣鐘惣題。勝堅擬西域。竺墳五千卷。華言百師譯。琬公懼変滅。鉄筆寫蒼石。片々青瑶光。字々太古迹。功成一代就。用藉萬人力。流傳鄙簡編。堅固陋板刻。深由地穴藏。高聳岩洞積。初疑神鬼工。迺著造化迹。延洪勝汲塚。防虞猶孔壁。不畏野火燎。詎愁苔蘚蝕。茲山既無盡。是法寧有極。如何大業間。得此至人出。幽明護尓利。乾坤配其德。大哉弘法心。吾徒可為則。

○穀積山　縣の西北にあり。山下より三の石洞あり。三穴と名く。牧羊人と客ぐ。此山遠く望む時は穀粟の如く故名く。

○般州山　○馬鞍山　○大安山　縣の西北にあり。

島峪　縣の西にあり。内に石窟あり。賈鴻が漢書を讀し所なり。○賈嶋墓　縣の南十里にあり。

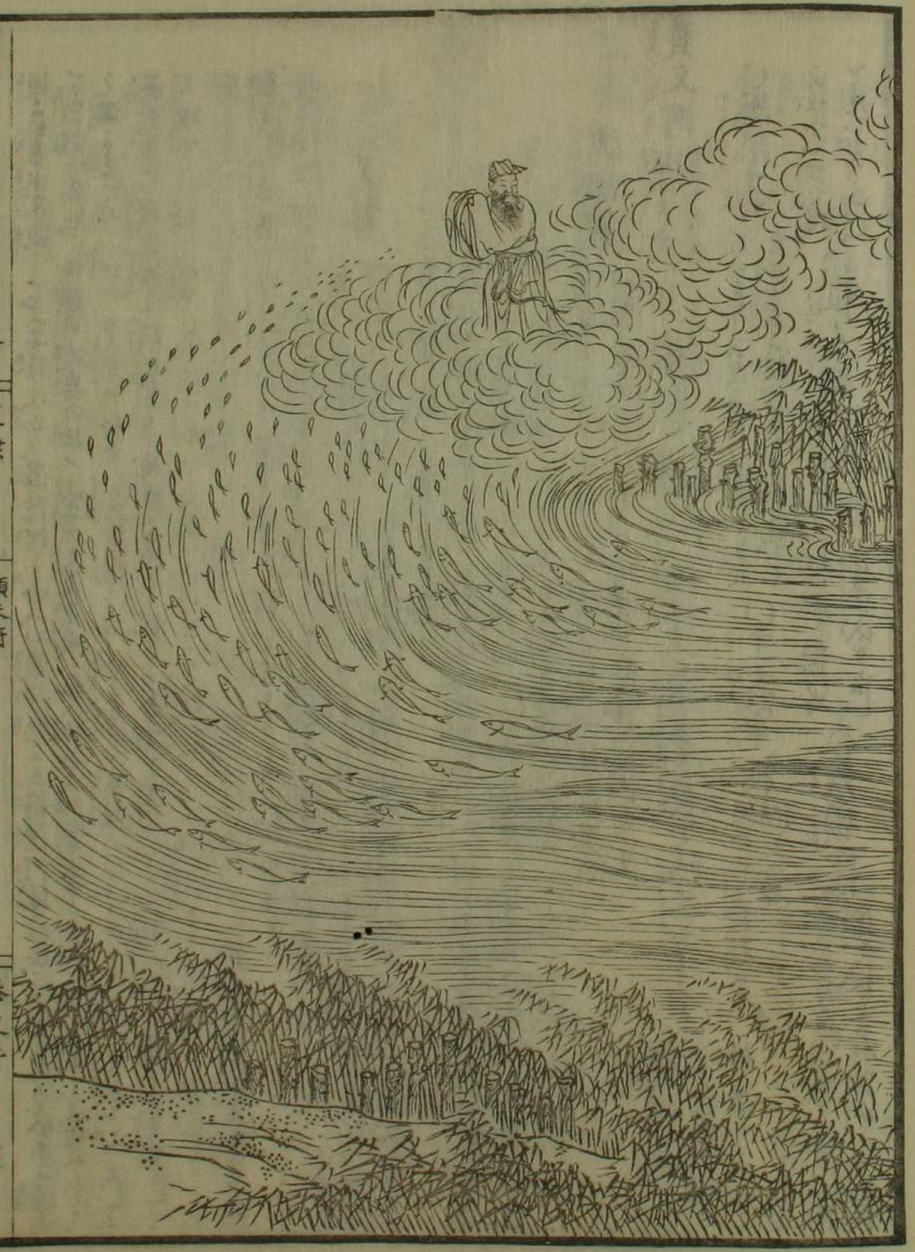


○孫臏墓　縣の西南上樂村にあり。臏は戰國の人。齊の軍師なり。○龍門墓　縣の南二百里にあり。墓の正面に洁山ありて其下を澗あり。流を測るに南より一の竅あり。○上方　縣の南六十里にあり。両崖の間を繋て石橋を架り。絶頂に泉あり大さ斗のごし。流を測るに。

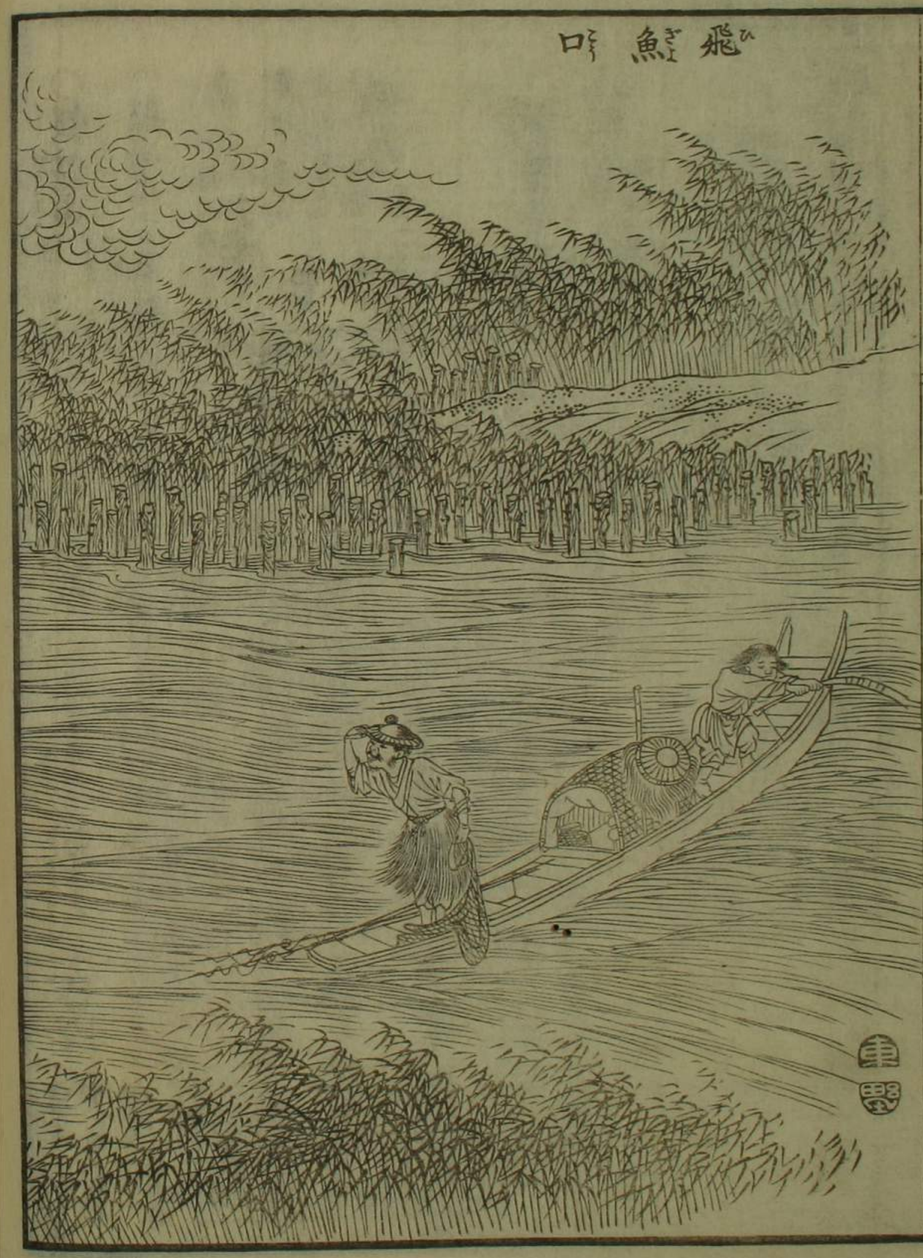
○人物　○元の高克恭。字は彦敬。西域の人なり。元に来りて房山の橋居を家林墨竹を善く画けり。官尚書に至る。房山の人。

文安縣　霸州縣の南七十里にあり。唐貞觀の初め豐利縣を改て文安縣と為す。

史燒澤　縣の東二十五里にあり。廣さ凡十餘畝石溝柳河急河の三水此に聚まり。柳河よ里にあり。永年縣に入て直沽に注ぐ。○圖經に云ふ文安より狐里澤あり。俗に九を堰經澤と云ふ。○文安潭　縣の北十五



飛魚口



泛る日易水東流して文安縣に入り澤陀河と會し
て消滅す○後魏の延興の初め文安の人王遵
き頭ある者て曰く此の内大魚ありて得ば
甚だ息の限り後裔の福を享く頭槌て落し
去頭やがて細き水中より人の形
遵之を烹てこれを食へば両儀なりと
彼方の雑魚なれど漁人の心もう猛頭細を下し
得るや否と甚だ名けてお笑ひ草ぞ

○人物

○後園の園恵霊は文安の人なり文帝の時黒き鯨てとらへ公乗尚書僕射となり関右
革創し礼楽鉄律を定む恵遠善く書を
善ん良士を挽く当時これを重ん
○名の王伯勝は文安の人なり勤恪
倹を民を養耕種してこれを廩餼
るさんに苗源淀して熟る年々絶ゆ

大城縣　霸州の南一百三十里にあり漢
の時今の名の如し宋金元明清皆
因る

黄丈河　縣の東北十里にあり

○豹墓　縣の東北牙村にあり相伝ふ
○鳳凰墓　縣の東十五里にあり蜀の石勒に
梁園鳳此に現じ花の墓と称く○王石軍祠　縣の西五里相村にあり祠
みよりて依て祠と名く○仙人洞　縣の南にあり洞の深さ窮
と達てあるべし○巻順宝注　縣の西にあり相伝ふ唐の石崇
邊を征る時軍中の万馬の飲む所

玉帯河　縣の北にあり流て会通河に入る

平谷縣　霸州城の西北八十里にあり一つの渓湯の地方り資の
周村河　縣の西十里にあり馬荘河獲楽河五百
溝河鄭泰河等と合つく海河に入る
陵方ところ　其上に軒轅墓あり
雲泉山○栖山○栖山○磁眉山○磁山　縣の東北
山の形勢のごとく
山の上面貧中平にして城のごとし　石室一區あり僅に二人の棲所を
容る縣真人此に修煉せりと○瑞屋山　縣の北二十五里にあり
上に穴ありて雲気を
○看易墓　縣の南五里にあり
○麥馬墓　○摩敲墓　縣の西二十里にあり以上三墓
○發石墓　縣の東二十里にあり

金花公主墓

縣の東三十里馬家莊にあり金花公主の墓と傳ふ公の舍の傍に家の女かう其墓両の山抱抱する崖のごとくなるに囘環して墳墓を施して望み難けれども高阜のごとくにして阪へうに其阪を測ざるべし



保定府

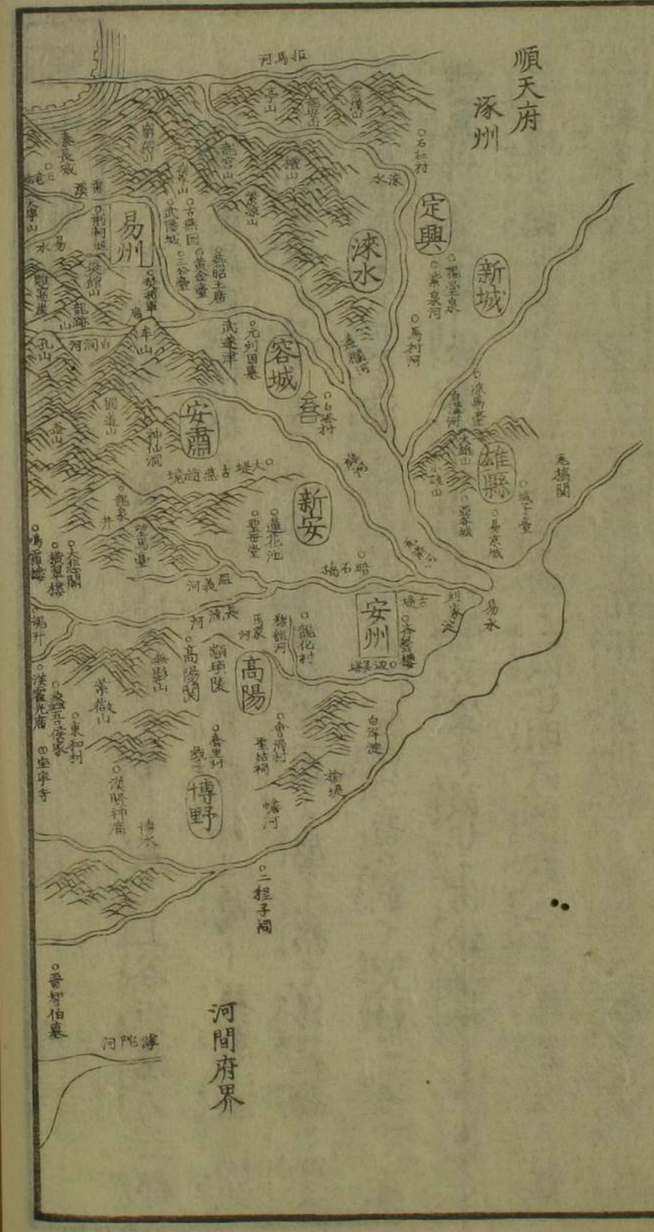
此地禹貢の冀州の域なり。戰國の時は趙に屬し、秦は上谷・鉅鹿の二郡となし、漢は涿郡及び信都・中山國の地となす。晉は范陽に屬し、後魏は樂浪・北平・上谷・郡の地となせり。隋は上谷・博陵・河間の三郡に屬し、始て清苑縣と此に置、唐は改て此地を莫定滿瀛等の州となし、五代の晉は割て契丹に屬せしめ、此に泰州を置て宋の保塞軍と置、金は順天軍と改む。元の初保州となし、易て順天路となし、至元の間に保定路と改む。明の洪武元年保定府と改め、清朝もに依れり。府治を清苑縣に置、祁州・安州・清苑縣・滿城縣・安肅縣・定興縣・新城縣・唐縣・博野縣・蠡縣・雄縣・束鹿縣・高陽縣・新安縣の以上三州十五縣、保定府に屬する所なり。

（明の保定府に隸する州三縣十五、其易州を今直隸州となし、保水縣を省いて二州十四縣今の制なり。）保定府治より東河間府の靜海縣の界





保定府總圖



支安縣界

保定府 東西六百里 南北三百二十里

…ゝり。三百里。西い直隸易州の…
の界ゝゝり。二百二十里。小い順天府涿州の界ゝ至三百里。北と保定府の治る境と以。

清苑縣　即保定府城と共縣ゝ連ゝ縣治ゝ城の西ゝ二里ゝあり。水繞距泉ゝ出ゝ流ゝ清苑縣ゝ入。○雄距泉　府城の西三十里ゝあり。泉ゝ湧ゝ流ゝ其ゝ…

清苑河　府城の西ゝ二里ゝあり。水繞距泉ゝ出ゝ流ゝ…て城の南ゝ於ゝ繞里ゝ…く會流ゝ…ゝ入。○雄距泉　府城の西三十里ゝあり。泉ゝ湧ゝ流ゝ其ゝ…

秋雞距のごと。故ゝ名く。一説に泉と谷と城外の傍ゝより出ゝ…く。減あれども…ゝ。寒秋の交澤中ゝ荷…

清ゝのゝとくも。…ゝべくもあらざ…
ゝ人證ゝ…に集ゝて共ゝ樂む。○一畝泉　府の西三十里ゝあり。泉ゝ湧ゝ流ゝ其ゝ…

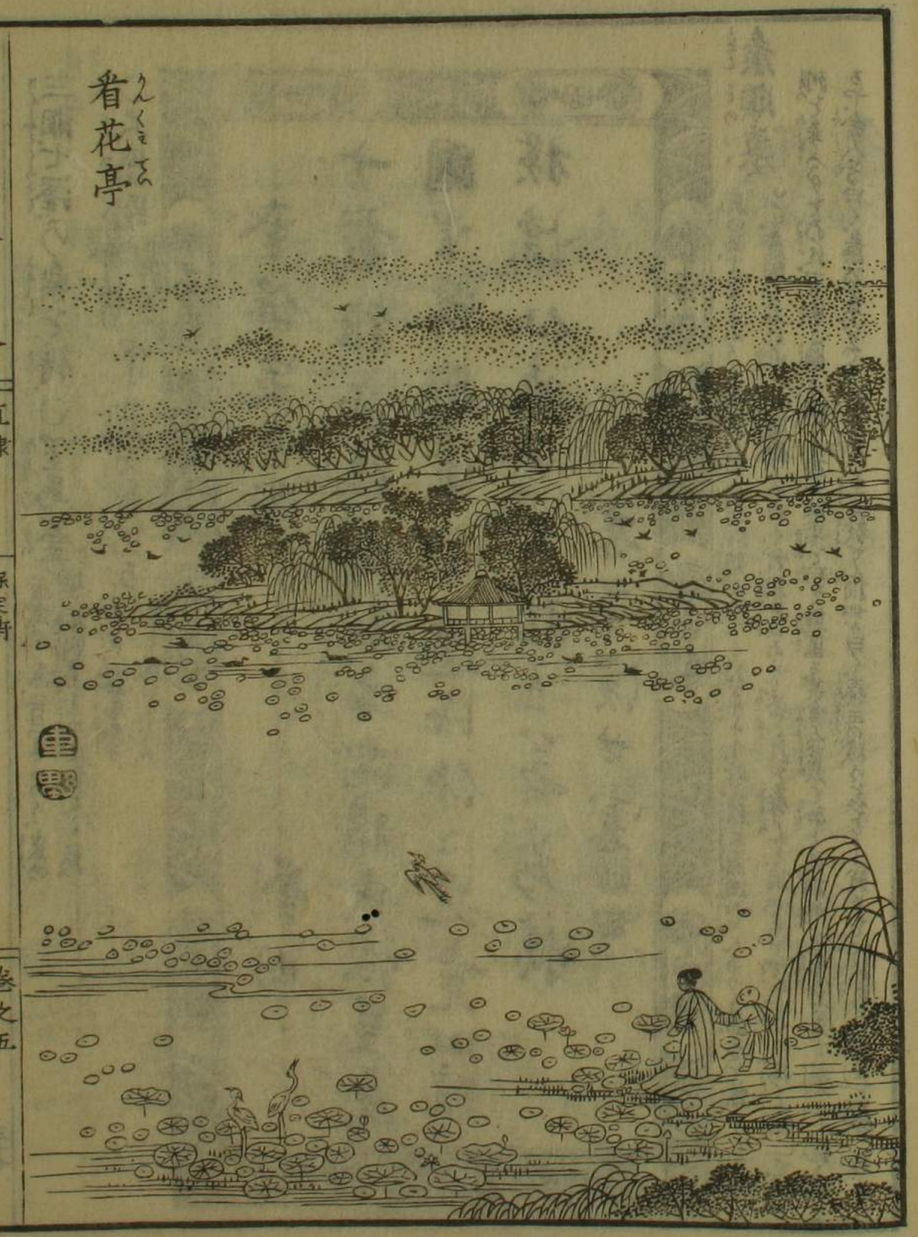
○梁河　府の東三十里ゝあり。○玄尾河　府の東南九十里ゝあり。○蓮華池　府治の南ゝあり。池ゝ…ゝ柳…

塘西溪北潭等の景地ゝあり。皆緣距の水を引ゝ…く。府内の勝景と以。

郎山　府の西ゝ…十里ゝあり。一名狼山。其峯尖…ゝて。削ぐごとく。皎然と玉の如くゝ…

○龍泉　府の南ゝあり。洞ゝ…龍出ゝ…ゝと。而と初ゝ…ゝ…悉ゝ…。○龍泉寺　府城の東北二十里ゝ…ゝ。此寺。秦漢の…ゝ…ゝ…ゝ

看花亭（くんくわてい）



蓮花池（れんげち）

臨漪亭（りんいてい）



直隸名勝圖會



三湘七澤の樂を得。○望馬臺　府城の東二百里にあり。衆の
○大悲閣　游洛の中より大士を祀る。茅戸・張家疥が
　　遠き者なり。

登保定市閣　劉因

十載誰泉隱今朝市閣晴氛落萬屬
國罣弗帶軍營遠海依山見亮心
撫懷仙典思古獨立蒼茫情
杏堂演世憲圖

廉頗墓　府の西十里にあり。廉頗が戰國の時、趙王蘭相如が爲に
　　讒し、廉頗が右に在しむるを好まずして曰く、我相如あるを
　　聞くと雖ども、一日逢ふ時は必ず之を辱めんと。相如是を
　　聞くや、常に病と稱して朝せず。一日遙に廉頗と相如と車を
　　列ねて行くを望み見て、車を回して匿れ去る。相如が舍人
　　皆恥て去らんと欲す。相如が曰く、秦王の威を以てせども、我
　　之を叱して其群臣を辱めよう。

獨秦將軍を畏んやそうぐ公り疆秦兵の攻撃加べざるの五ヶ國を危うん吾が國の急を救はしてれの讎と後ろとをひ和如ぐ門よるがく無を滅し給ふ劍頭の玄をとるせり。

○人物。耶律伯堅いえの。至元中漢苑綠の尹う。綠の西ゝ德あり。勢家據て礎とる民祠を為ぐべく〳〵自堅爺」して獲と殺ら水と面ゝ滅ぐ民ゝ喜ゝ元綠紙をき若あれい滅日く。宰那を上の得るくもゝ那を那と得へくく必薪署ゝ海でかて色と為ゝ慶苑ゝあるの府の南百二十里ゝあり。漢の中山國唐國綠の地ゝり。弟ゝ博陵郡ゝ屬し。階ゝ義豊綠と為く。屬ゝ改て。玄郎綠ゝ云ゝ宋の天會中。始て。祁州と為ゝ元ゝ綠ゝ云ゝ。滹沱の蒲陰綠ゝ云ゝ。

祁州

沙河

州城の西南二十里ゝあり。源ゝ州ゝ云州の界と。本南ゝ流ゝ滋河と合ゝ〳〵易水ゝ入る。○滋河州城の南三十里ゝ源ゝ發ゝ祁ゝ云ゝ。

封王墓

州城の北ゝあり。高ゝ三丈廣ゝ十丈漢の光武此ゝ封を受く故ゝ墓を築く。○秦王廟州城の南三十里ゝ窪張村ゝあり。祠の宣德七年廟の後ゝ地ゝ〳〵ゝ石碑ゝあるの。高ゝ二丈。滹ゝ則へ。

○人物。えの世を佳ゝ祁州の人ゝり。幼ゝして悉記膽ゝ人ゝ秀ゝりとして。仲ゝ為ゝ。

安州

府城の東七十里ゝあり。此地圓ゝ蓋ゝ邊と界を接ゝ〳〵屯戍孚鄭ゝ。

易水

州城の北ゝ源の界曹河。徐河石橋河一帖泉滋河。滹沱河。磐河の滿水州ゝ合流ゝ〳〵易水ゝ為ゝ。○

讀荊軻傳　王崎

悲歌一出髮衝冠遺恨千年
易水寒猶咲荊卿不解事欲
教嬴政學齊桓

井阪元善

ゝれを殺んゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。


風箭之
号
易水
寒
壯士
一去
号
不復
還
按語云
重點



○古堤 州城の小陽水の渓よりあり。秦の時、此堤と築き以て九河の水を汚ぐ。宋代又之を築て上よ雲錦基を建て、俚乃上よりまた鮮麥くようを爭ひ雲のごとく、又稗を啜ふよ仰ぐ。又雲稗を名く。○劉家渓 州城の西二十里よりあり。源渓縁の石橋河、一説泉より州の西を滙ぐ渓より流て易水へ。○齊雲樓 州城の西北の隅にあり。樓擧雲を凌ぐ故よ名く。○邑界塔 州城の南にあり。

滿城縣

保定府の西北十里よりあり。其治よ今の滿城縁なりと云ふ。漢の小平縁なり。史記よ劉荊之を築て以て燕と防ぐ。後魏の永熙二年、永樂縁又改て唐の天宝中よ滿城縁に屬す。

眺山 縁の北三里よりあり。山下の小よ秦馬洞芙蓉洞あり。数百人を容る。其山巍然として峙立のごとく、絶壁よ倚て眺望をる故よ此山よ名く。又山上よ武の石あり。石山仙人の足迹あり。○陵山 縁の西南三里よりあり。上よ右帝王の陵あり。○抱陽山 縁の西南十里よりあり。山勢南よ拱く、内の谷溫和なり。松竹の附よ雑れ、石河七十二の大なる巻ありて三百人を容る。小なる者数十人中よ石床石架石門石牀等あり。皆天造はして人力よあらず。永雪の積るが如し。又抱陽山と称ふ。

抱幽村 宋元雙龍宿宅墓回首萬山東盡處冷烟平遠米乾坤。○謁山 縁の北里よりあり。○英土山 謁山の北よりあり。

山頂平曠坐一て好ぶ所し。又石中よ泉あり。○玉山 州の北小三里よりあり。山よ白石多し。其玉よ温潤にして緻密なり。

此名勝石よりよ出ず者

○孫山 玉山の北小十里よりあり。山下よ唐の玉山寺あり。

方順河 縁の南又十里よりあり。漢よ順水と称ず。○徐河 又同山よ發源す。源水徐水縁の名あり。皆一水二名あり。流抱して北よ流る。

讀書堂 縁の西数里よりあり。一名桐公堂。唐の張說嘗て業を此よ肄し、又同山よ發源す。源水徐水縁の名あり。皆一水二名あり。流抱して北よ流る。

趙簡子祠 縁の北里よりあり。○張蒼墓 縁の西里よりあり。

○人物

○元の范至果、滿城の人なり。幼より穎悟、年九十よりて三日絶食して死す。

安肅縣 保定府の北六十里よりあり。古の安喜縣なり。

牟山 縁の西北八十里よりあり。山よ石多く、土肥よう田よ宜しく稲麻を植ゆ。

四面高く聳へ中よ通の谷よ名く。○龍山 縁の西十里よりあり。山下よ龍王の祠あり。雨を禱るよ応ず。

應あり。俗此を以龍孝坂とよ名く。○聖妃山 縁の西北十里よりあり。詰隠の煬帝を葬るの処なり。其形の似ようよ名く。○伶山 縁の西北十里よりあり。詰との人の龍泉あり。

征ようる時、其肥沃にして美なるよ因て遂に此よ葬ようと云ふ。○仲仙洞 縁の西仙人笑伯陽此洞中よ藥ようる山上よ鼈の龍ありて蚤下ようるよ二百歩ようる。洞内掘て廣くるよく雲ひて屋のごとし。上よ鼈の龍ありて蚤下ようるよ二百隠る。洞内掘て廣くるよく雲ひて屋のごとし。上よ鼈の龍ありて蚤下ようるよ二百歩ようる。一の門孔あり。水滴ありて蚤下ようるよ二百其数雷のごとし。よ名づく。

○易水源出縣西南流三百里至長灘之西與遷江縣之東流水合流～南要肅縣之遷江縣之界山之流～南要肅縣之界山之流～南要肅縣之遷江縣之界山之流～南要肅縣之遷江縣之界山之流～南要肅縣之遷江

接時墜而沒。今遺址猶存。

樽野縣

保定府の東南九十里にあり。縣の間樽野縣を置く。漢に屬す。高陽國に屬し編戶二千六百。

樽水

樽野縣を經て東南に流れ、直に滱水に合流して滱河に入る。王莽名を順淵水と改めしと。

〇二疑の祠

縣の東南二十五里にあり。漢の時此墓上に樽臺ありしと云ふ。

望都縣

保定府の西南九十里にあり。漢の舊都縣なりしが、後易に改めて保定府に屬し、後易に屬し、明洪武初縣を廢して編戶十里を慶都に併せ、希堯の母慶都の名を以て縣名とせしと。

龍泉河

縣の北にあり。源龍泉より出で滙て河となる。

〇清水河

〇灤龍河　源の西にあり

〇黃泉

〇黑泉　何れも縣の北にあり

十歩許水の色黃黑なり。此二泉龍泉の水と合し、流れて縣城の濠を浸して永

〇人泉河

中涌泉あり。旱魃すと雖も涸渇せず。

〇涌泉

縣の東北にあり。泉源湧出て滙て溪となる。

〇堯廟

縣の南二十五里にあり。高二丈、廣十丈。堯の母慶都を葬る。

〇慶都陵

縣の南にあり。堯の母慶都を葬る。高二丈、廣十丈。堯の母慶都を葬る。

〇龍泉溪

縣の西南五里にあり。龍泉と合して滙て溪となる。

〇柳宿城

縣の東北にあり。中山靖王の子を封じて柳城侯となす。今尚ほ名殘れり。漢の高帝の母王夫人薨ずるや別に地を

白塔村

縣の南にあり。白塔あり。縣の附近高さ七丈、周二丈五尺。

劉因墓

縣の溝市村にあり。元の名儒の墓なり。

〇人物

元の劉因、容城の人なり。天性穎悟人に超う心を性理の學に留む。其の義に安んじ、召すも就かず。徵せらるに至るの間、徵せらるに及び右契吾を召すも辭して就かず。靖し遜し、靜脩先生と號す。

容城縣

保定府の東北九十里にあり。天寶のとき容城縣と名く。

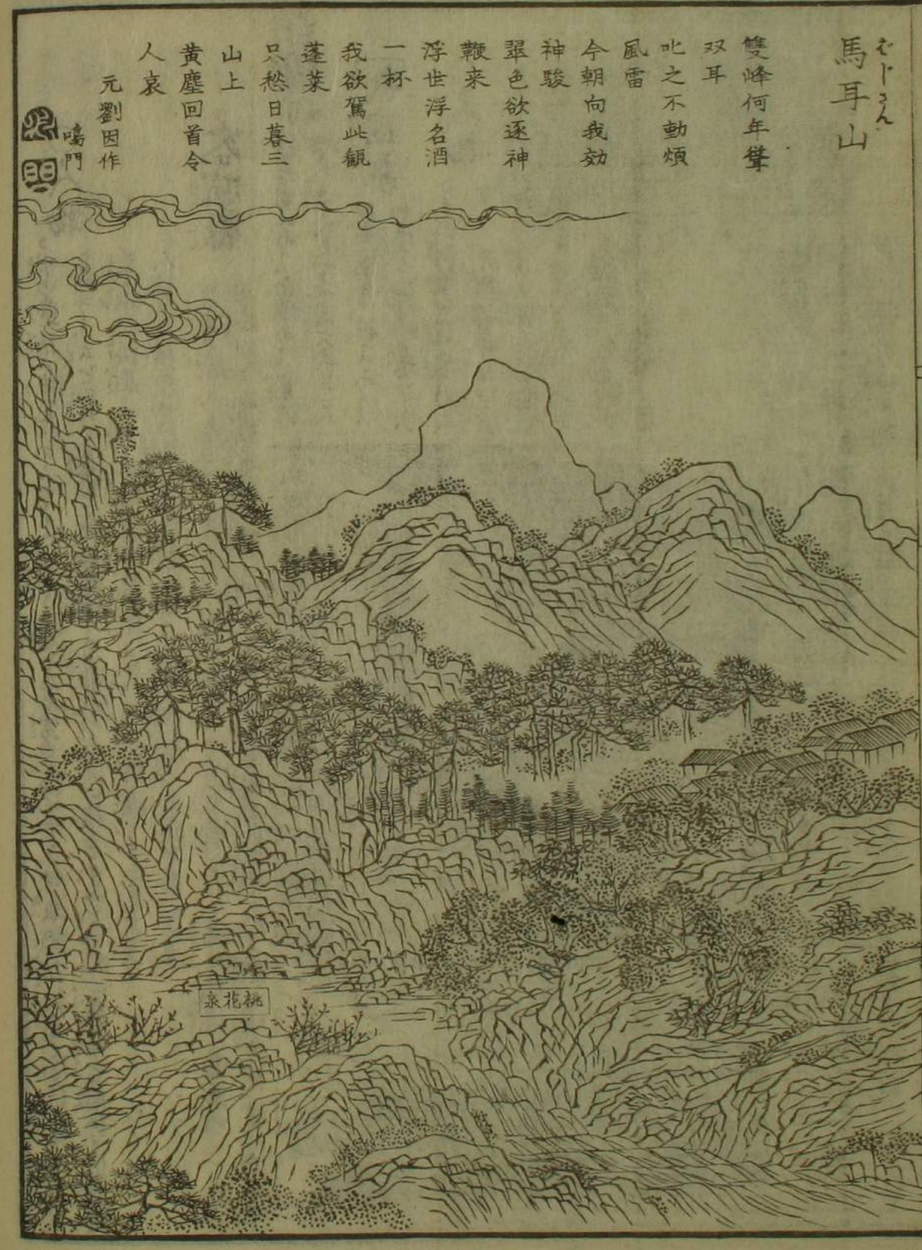
完縣

保定府の西七十里にあり。秦の曲逆縣なり。滱水縣城の北を繞りて曲逆を遶て東に流る。漢の曲逆の名あり。漢の高帝追尊の神此名號を惡み命じて蒲陰縣と改む。唐の北齊の神小平縣と改む。後又易て完州と改む。明の洪武二年完縣と改む。編戶十八里。



むとうざん
馬耳山

雙峰何年聳
双耳
叱之不動煩
風雷
今朝向我効
神駿
翠色欲逐神
鞭来
浮世浮名酒
一杯
我欲駕此観
蓬萊
只愁日暮三
山上
黄塵回首令
人哀
元劉因作
嗚門



濡水一名北易水。源出狗獨山。流出保定府城南。合流而東。計三百餘里。[林史]入海。（林本現前。）

崽山　縣の西二十五里にあり。形狀崽猪に似たり。○油山　縣の西南三十里にあり。高く五雲水に入れり。○伊祁山　縣の西南三十里にあり。高く五雲水に入れり。

○白崖山　縣の西南十里にあり。山石皆白し。（内に白石洞と云ふ。）

○栢山　縣の北二十里にあり。山に栢樹多し。（周圍七百餘步圍三尺餘。）

○馬耳山　縣の西二十里にあり。二の峯高く聳へて耳を捕む馬の耳に似たり。其中に栢花洞あり。又栢花泉あり。歲旱すれば雨を祈る處なり。

漢陳平宅　縣城の北門に其址あり。今名付二陳平宅一。

○陳平墓　縣の陳村にあり。

堯城　縣の南にあり。相傳ふ唐堯の築く所なりと。其東南にも城あり。堯の子丹朱が築所。

○苌弘將軍洞　縣の東にあり。苟本蘭女嘗て其父の代より此洞に住守せり。唐封一て苌弘將軍一と。

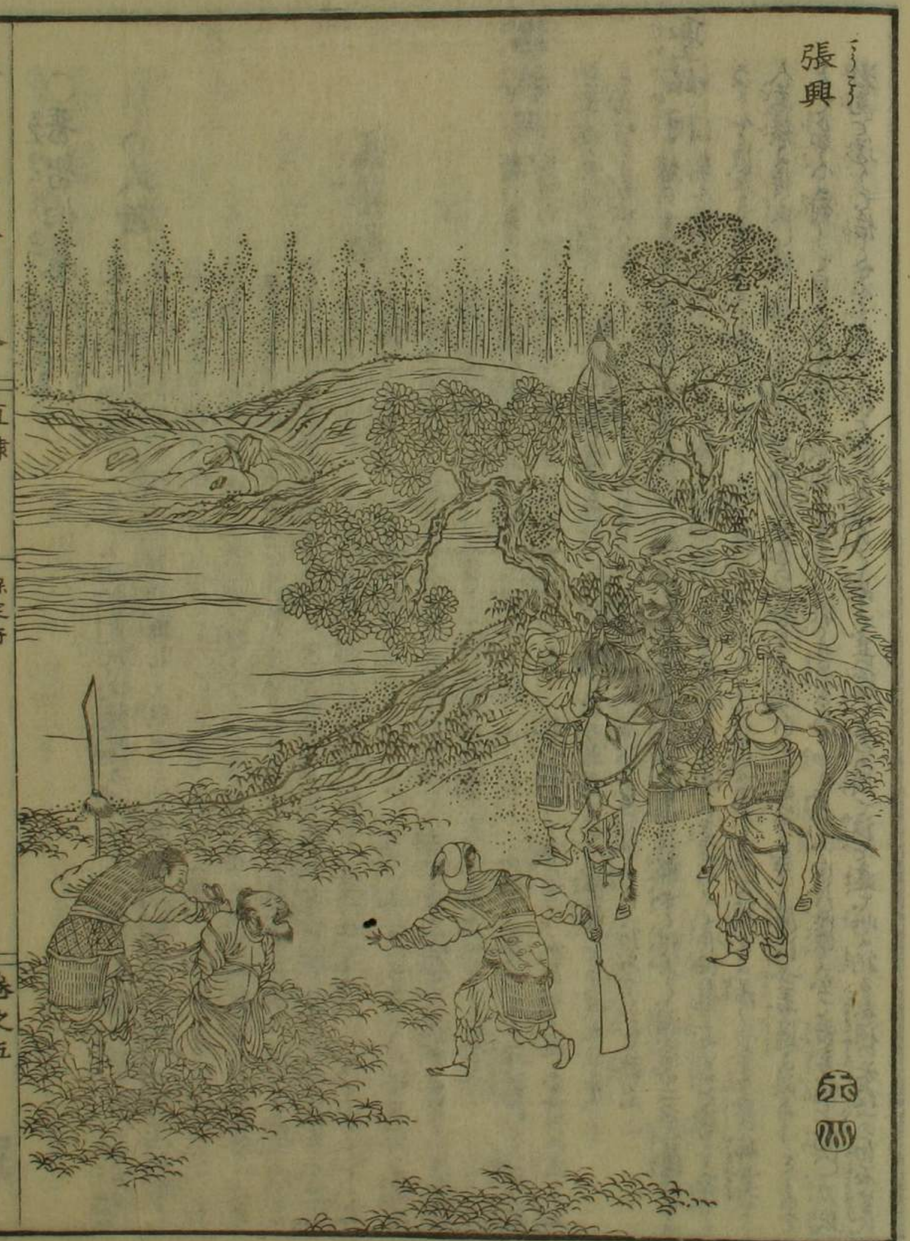
○陳平墓　縣の陳村にあり。

○人物　漢の王商の高義の人なり。（商の傳に詳なり。）

○漢の王商の高義の人なり。（商の傳に詳なり。）

○漢の王商の高義の人なり。（商の傳に詳なり。）

○



○宋彭汝勵使遼至雄閲詩馬頭今日過中都到得雄州東有書道路莫嗔音閒少天寒沙漠雁來疎○宋歐陽修瓦橋閲眾古閲衰柳聚寒鴉駐馬城頭日影斜猶去西樓二十里行人到此莫思家

○城子墓　縣の東南にあり。○涼馬墓　縣の西にあり。俗に呼んで馬を殺して葬りしの地と。戦國の燕魏易水を界とし、互に此に二墓を築き、登陵して以て武を競ひしものなり。

○人物　○宋の李名則は雄州の人なり。初め民の屋宅苗を結ぶや、名則淘汰を行ひ、元の舊風を革めんと欲し、遂に力を戮して遏の擒となるに至る。元の石抹甚忠は雄州の南門を開き降る。明の孫一奎は雄州の人なり。初め醫を以て太醫院に薦められ、後山東の按察使に遷る。

束鹿縣

保定府の南百二十里にあり。南宮の大澤の地なり。滹沱水の流つるを以て名く。漢は鄚縣と束鹿縣とを置き、後魏で束鹿縣と改む。明清之に因る。編戸十七里

滹沱河　縣の南三十里にあり。水源より流れ來り、縣の境を經て晉州に入る。元の脱因河、明の滹沱河、即ち是なり。滹沱河の名は此より出づ。其源

滹沱河の名の由來此水洶湧の意なり。

「束鹿巖」縣の小さき三大山の内、廣一千餘丈、路踞り絶壁の如し。

紅草坡　縣の南十里にあり。唐の渾瑊張興が墓あり。忠烈の死を賜ふの墓なり。

○番智伯墓　縣治の東南にあり。

○人物　唐の張興、東藩の人なり。性忠勇、則天武后の時、洛陽の擇ばるゝや、嘗て妻孫山孤と共に思明を送りて洛陽に過てかと偕せんとするに、外舅徐敬業の絞殺せらるゝを聞き、興の曰く、我軍中の直の性大に我の往いて弔まんと共に興の日く、上孤山と偕に小恩ありのみ、其徳を報ひんと欲す、吾豈に苟活して義を棄つるに忍んや、遂に孤山と偕に墓を築きて之を葬り、興の墓亦近と相隣れり、後人偕興孤山の墓を呼て義士墓と云ふ。

高陽縣

猪龍河　縣の東二十五里、龍化村より出で、北のかた流れて河の濱に入る。

白羊渡　入馬渡河。

○馬家河　縣の東三里にあり。

○揄隄　縣の東南にあり。延袤七八里。

聖姑祠　縣の東南會洞村にあり。聖姑姓は郝、容貌端麗、年十七にして父母の命を以て、同村の王氏に嫁す。王氏は富家なり。姑の夫の弟婦、姑を妬み、姑の夫に讒して曰く、姑は美貌なり、必ず外に私通せんと。夫之を信じ、姑を撲殺して、之を井中に投ず。姑の死するや、井中より紅光天に燭す。人之を異として、井を掘りて姑の屍を得、之を棺斂して、祠を建て之を祀る。

○人物　後魏の許羌、高陽の人なり。性孝友、父母没するや、墓を築きて之を守る。

○人物　後漢の光武帝の時、高陽の人なり。性孝友、父母没するや、墓を築きて之を守る。

高陽関　縣の西にあり。周の徳六年に築く。

長流河　一名長溝河、縣の西南八里にあり。源は雹河より出で、雄縣の馬渡河に入る。

蓮花池　縣治の北にあり。

○温義河　縣の南八里にあり。曹河、徐河の二水相合して、温義河と名く。南流して長流河に合す。

晴石橋　縣の東南にあり。宋の楊延朗が造る所。石柱水中に立て、歳旱れば、此の頂に祈雨すれば、輒ち雨ふると云ふ。

○大堤　縣の西北にあり。延袤十餘里。

新安縣　安州城の東北二十里にあり。漢の涿郡容城縣の地なり。東漢王仲文を封じて新安侯と為す。即此地なり。今の新安州これなり。

蓮花池　縣治の北にあり。

○晴石橋　縣の東南にあり。宋の楊延朗が造る所。石柱水中に立て、歳旱れば、此の頂に祈雨すれば、輒ち雨ふると云ふ。

○聖母堂　縣の西三里にあり。



聖姑祠



永平府總圖

永平府 東西三百里 南北二百廿里



永平府

禹貢冀州の域の東小營州の地なり。郎商の孤竹國春秋の時山戎肥子の國となせり。秦より遼西右北平の二郡と置漢の末公孫度此地を據す。三國の魏、盧龍郡と改め小燕より平州とし、樂浪郡を置後魏に改めて北平郡とし、五代の唐、遼興軍を置金の時より南京と稱し後復平州と名く元の改て興平府とし中統年間平灤路と改め大德中永平路と改む明の洪武二年永平府とるゝ。京師より直隷に清朝これも仍府治を盧龍縣に屬する州一縣六、曰灤州曰盧龍縣曰遷安縣曰撫寧縣曰昌黎縣曰樂亭縣曰儀楡縣。明の儀楡縣を裁ち灤の閻極寧乃地とならち寒外と稱せく縣となせり。元永平府の治より東山海關まで一百二十里南山海まで一百八十里西遵化州の豐潤縣の界まで一百二十里北山林口まで一百十里東永平府の治る境内とし、唐太宗於北平作翠野駐戎軒。

盧龍轉征旆遥山麗如綺長流棠似帶海氣百重樓巖松三尺大茲焉可遊賞何必冀城外。

盧龍縣

永平府治を此縣に建永樂の齊れ北平郡とし又改て北平府とし盧龍縣を此縣に屬せしめ後又改て盧龍縣とし遼金元明清朝これも仍府治を盧龍縣に置く。

灤河　盧龍縣府城の西門外より流來る。此河灤州に出て灤河と名く。灤河と合て海へ入る。

灤河　府城の北十二里。此灤河の下流なり。

○小浪水　俗に府の北にあり。下流洞ありて灤河に入る。

○譙樓茶坡　府の南にあり。雨降んとすれば必ず乳とる。

陽山　府城の東南十五里にあり。射虎石あり。

○肥如河　府城の東二十五里。此灤河の下流なり。

○釋龍水　府城の東九十里にあり。

○湯山　府の西南二十五里灤河の中に湧水其上に突出す。

○馬鞍山　府の西南二十五里にあり。山

○園山　府の西北二十五里にあり。

○大浪水　府の東南。

○洞山　府の西北二十五里にあり。山

○雙峯山　府の西北十五里にあり。山

○周山　府の西北二十五里にあり。

○筆架山　府の南十五里にあり。巔石巉巖として筆架のごとし。

○王山　府の西南二十五里灤河の中に湧水其上に突出す。

○馬鞍山　府の西南二十五里にあり。山

○小安山　府の東北。

○龍山　府城の西。元和二十五里。

○烈坡山　府の西南二十五里灤河の西に在り。

○赤峯山　府の東南。二十五里。

志に云盧龍縣境内の山水形龍のごとくにして色黒しとて縣の名とせり。



射虎石

府の西北十里あり。史
記孫叔敖の墓あり。○龍谷　府の東南二里あり。其形龍の如し。故に名く。○鳴遠樓　○孝高樓　○文會亭　○狗奚墓　○望海墓　以上皆府城の内又は邊にあり。漢の武帝の海と望むと云。

○桃林口関　盧龍縁の小谷なり。

「伯夷叔齊廟　漆河の邊にあり。宋の時、伯夷と仁裏候に封じ、叔齊と仁惠候に封じ、伯夷と封じ、昭義仁惠侯と、叔齊を仁惠侯に封じ、伯夷と封じ、昭義仁惠侯と、叔齊を

「古孤竹國　府城の北十里あり。殷の孤竹の君封ぜらるの地なり。○古肥子國　亦府城の北にあり。春秋の

「古朝鮮城　府の東北里強橋河の北岸にあり。一の大石上面

石槽　府の東北里強橋河の北岸にあり。一の大石上面陥て馬槽のごし。唐の張果這を飼ふ所なりと。○三圻　一に温溝と名く。一に白冢と名く。一に古城村の東なり。○尼絶常寧と名く。古城あり。西より流れ一道の水ありて絶つ。一に石竜溝と名く。家あり。西より流れ一道の水ありて絶つ。一に杜甫堂と名く。家あり。肥水と合流す。杜甫堂あり。

○人物　○漢の周勃、初め織薄曲陽侯に封ぜらる。○七十女　府の境内にあり。相伝ふ、其つまが封ぜらるの地なりと。

後燕慕容皝を葬る。小平郡と属し、丹苻堅て新昌縣と改む。

○伯夷叔齊孤竹の君の二子なり。其父初め弟叔齊を立てんと欲す。父没して、伯夷叔齊孤竹の君の二子なり。其父初め弟叔齊を立てんと欲す。父没して、伯夷の讓る。伯夷の曰く、父の命之に背くべからずと。遂に逃て去る。叔齊も

又立んでを立て王の位を嗣て進む。伯夷叔齊馬を叩て諫めて曰く、父没して葬らず、孝を以て仁と為し、義を以て君を弑す。之を可と謂ふべけんや。と。

誠不可兵
餓死ふ怨
不降其志
ふ辱其身
人系之自
義之干嗟
乎忘民也

南里生

伯夷 叔齊



左右の老これを救さんとし、左右の老これを救さんとし、左右の老これを救さんとし、

三の洞あり。古人紙と結び棲の縁て登る。洞の内廣二百人と容るべし。河の向ふに香山あり。西の岳野山あり。上る石路孝み。登る者多く絶頂に至る。

萬軍城 縣の東三十里。周圍二百歩。中に將臺あり。

撫寧縣 永平府の東北十里にあり。漢の盧龍縣と爲し。東漢の時改めて驪城縣と爲し。後魏因て之に。隋大業初改めて新安縣と爲し。後唐復た盧龍縣と爲し。遼金元因之。國朝洪武初改めて撫寧縣と爲し。永平府に屬す。

陽河 縣の東八里の源に出て。縣の東南を繞て海に入る。○**雙文井** 山海關の西七十餘步の官道の北にあり。相傳ふ。昔孟姜女尋夫の時。此井に文を投ぜしと。○**溫泉** 縣の東北七十里の山谷にあり。泉味甘美。浴すれば疾を去る。

兎耳山 縣の北二里。雙峯峯巒秀麗。其形兎の耳の如し。山頂に洞あり。中に水あり。深く盤のごとし。之を聖水池と名く。○**紫荊山** 縣の南二里にあり。山石の堵あり。名を紫荊關と爲す。

山海關 縣の東四十里。西北十餘里に雞鳴山あり。關は山に依て城を築く。關城の周圍六里餘。東西南北の四門あり。東門の額に曰く。天下第一關と。關城の北に羅城あり。關城の西に翼城あり。關城の南に靖邊樓あり。樓の下に水關あり。關城の東に威遠堡あり。關城の西に寧遠衛あり。關城の東北に角山あり。關城の東南に孤山あり。南に出ること六里許にして海と接す。

渝河 縣の東北二里許にあり。源は薊州より出。縣の東南を流れて海に入る。○**灤河** 縣の東北二十里にあり。源は薊州より出。縣の東南を流れて海に入る。○**雞鳴驛** 縣の東北十五里にあり。關城の西に在り。

碣石山 縣の南二里にあり。山石の堵あり。名を碣石と爲す。

渝關 縣の東四十餘里に在り。關城の西に在り。

山海關 縣の東四十餘里に在り。關城の西に在り。

秦皇島あり。海上一里許にあり。始皇帝仙を求めしと。又一名を祖洲と爲す。

獨立山　此海中に在りて孤峙す。

望夫樓　山上に在り。

姜女墳　墓山麓に在り。

○關の中より西北の方を望めば。山巒重疊として。長城其の間を蜿蜒す。

山海關

雄關限重城　要地控海邊
東山峙重嶺　西海橫長川
濤急奔雷吼　風高怒鶴旋
秦皇求仙處　空有島三千

宋治


蜃氣樓
一日蓮蓮
孤山
望海臺
詩石


山海關
金山嘴
望海臺
山海關

○五花坳　山海關の西南にあり。其坳五ありて連り續る。相傳ふ唐の薛仁貴が征遼の軍を征ちる時、其將薛仁貴が統率せし所なりと。

昌黎縣　永平府の東南八十里にあり。舊卢龍縣の地。後魏の神龜四年、營州の地、後魏の神龜四年、營州を移して今の大寧の地に置き、後魏孝武帝の時、昌黎縣と改名す。編戶二十七里。

急流水　○沙源河　縣の西三十里にあり。源深く岩壑峻嶺の巓多し。一名七里灘。兩岸巨石磊落として急流の聲雷の如し。○蒲泊　縣の東南三十里にあり。○榛頭河　縣の西十里にあり。○渾海　縣の東南。廣袤

石門山　縣の西北四十里にあり。兩山峙立して門の如し。○貂歯山　縣の北十五里にあり。巖石森列して貂の歯の如し。○水巖山　縣の北十五里にあり。一名西巖山。山中より龍湫あり。

○鳳凰山　縣の北十八里にあり。○道者山　縣の西北二十里にあり。山上より巨石の南に向ひ遥かに帛書を捧ぐるが如し。○東山　縣の東二里にあり。山頂に巨石の亭立するあり。

壽老巖　井に見ゆ。○海眼山　縣の北三十里にあり。山より石泓あり。中より水湧き溢れ、潮汐の如く増減す。

○碣石山　縣の西北二十里にあり。高更復より西碣石より北平郡、驩虞縣、縣の西南河口のほとりにあり。北平卅の南也と。酈道元が云驩虞縣、縣海中にあり。南道のごとく大石あり。柱のごとし。潮水大に至れば、水沒して見えず。潮退けば則ち見る。及び潮汐退けども勢猶ほ數十里あり。山上より王賀の詩を刻せる碑あり。

○碣石山　縣の西北十里にあり。山頂に石柱あり。

「僊人臺　縣の北十里にあり。仙人の圍碁と呼ぶ石刻の像あり。

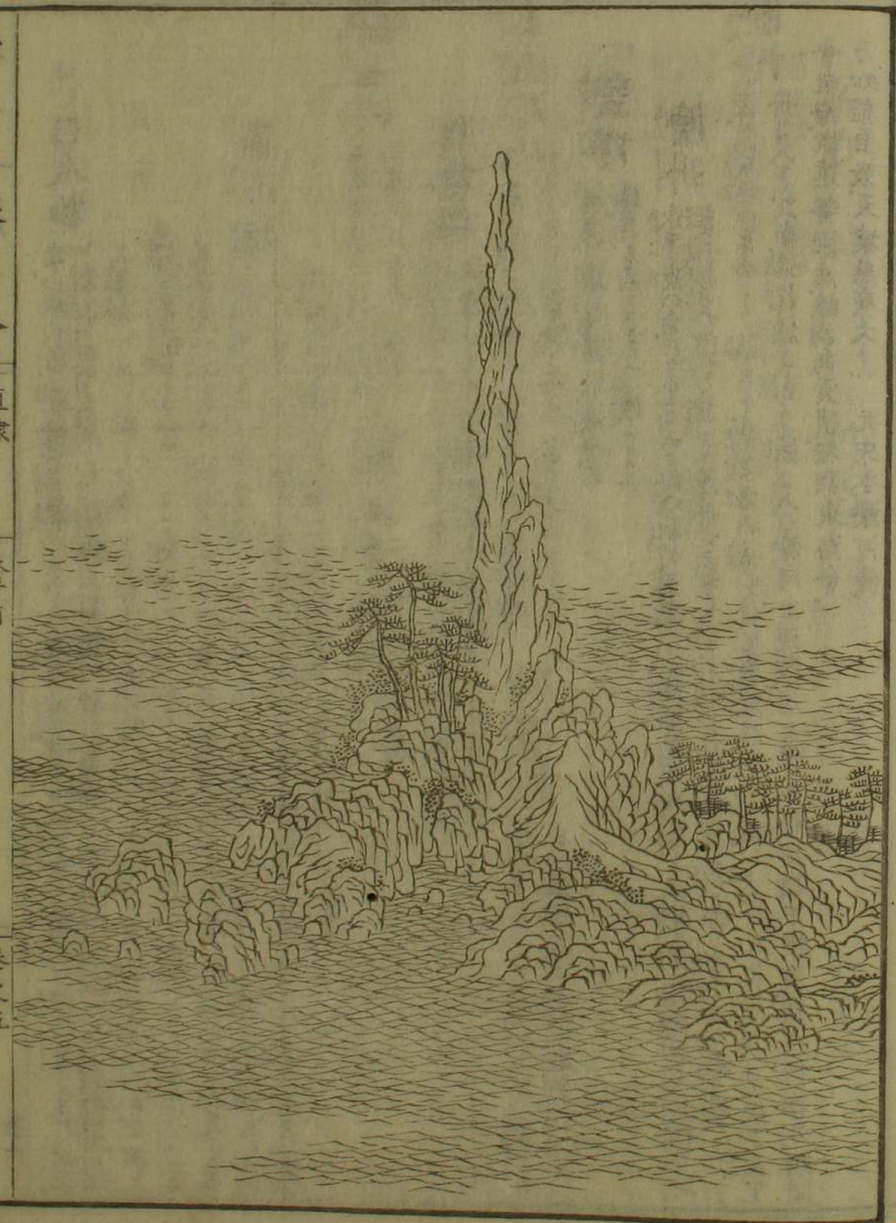
「嶺口関　縣の東にあり。

韓昌黎祠　縣治の西北にあり。唐の韓愈字は退之其先鄧の昌黎縣の人なり。始河陽より徙居して昌黎の人となる。愈嘗て潮州刺史に謫せられ、其地の人之を仰ぐ事甚し。故に其祠を建て以て之を祀る。

謁韓文公祠　張尚瑗

摠角誦公文不啻編三絶半世味公道無雄劍一吠維
公不朽姿薄雲貫虹蜺諷傷興詩銜西看均蠓蟻
氛氳一鞭香萬古應同藝舉℡何未生敢云景行
切潮陽謫官臣偶然過鴻飛雪籍此滌災陬海濱斗
杓揭湖流漾清泚峯勢環冤罘江山銜明德臨
眺心神澈白雲飄擔揔恍憶靈旗掣

南豐書



碣石山

魏武帝樂府曰出東南隅云
東臨碣石以觀滄海
水河澹々山島竦峙
樹木叢生百草豐茂
秋風蕭瑟洪波湧起
日月之行若出其中
星漢燦爛若出其裏
幸甚至哉歌以詠志

鳴門書

○人物　南史朝の韓麒麟、麟の曾孫の齊州の刺史を歴任し、治績ありて、民の飢饉に逢ふや、穀を出して賑ひ救ふ百余家に及ぶ。○隋の呂慮勲、初め校尉の官を授けられ、後に豊白名を改めて瑞あり。くれ滦州總管の楽安縣公に封ぜらる。滦州の刺史となり、惠政ありて、華夷悉く服す。○清の王文端公、滦州の人。

樂亭縣　清水河　縣の西にあり。源は灤河より出で灤河に合して海に入る。〔嚴福寺　縣の西にあり。明の宣徳中建つ。

臨榆縣　灤州城の東二十八里にあり。明の洪武中、灤州より入りて乾隆年中、析て縣を置く。縣治に編戸八里。

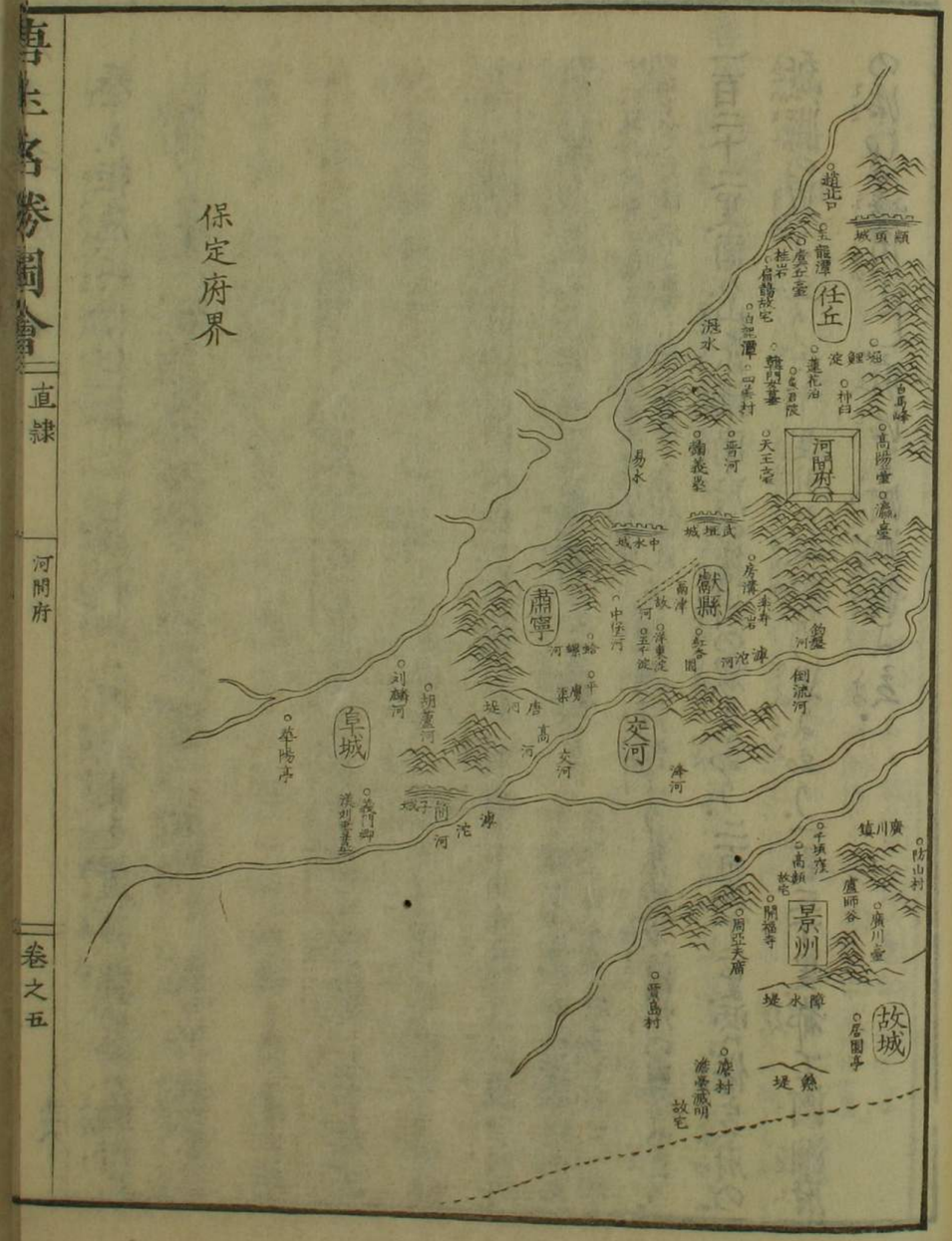
安流河　縣の西にあり。源は灤河より下流にして、岳婆港に通ず。

鹽場　樂亭縣、縣の東南の海岸にあり。

灤州　永平府の南九十里にあり。周の孤竹國、漢の令支縣なり。隋、盧龍縣と改む。唐、平州の治となり、後、遼に陷る。元、永平府と爲し、國朝、因て之に仍る。

灤河　灤州の東南より流れ来り、遷安縣の界を経て、灤州を過ぎ、又東南、樂亭縣の

保定府界



天津府界



畿輔名勝圖會

河間府總圖

河間府 東西百八十二里 南北四百廿二里

秦を鉅鹿上谷の二郡と漢代此を河間國を置後魏の時瀛州と
し隋の大業の初め後河間郡と改め其後或は瀛州とし或は河間郡とし
宋の時を河間府瀛海軍の節度とし元改めて河間路とし明の洪
武の始め河間府とし北平布政司の屬とし後京師を直隷とし清朝河
間府の天津衛を府とし屬せる州縣と二ヶ所とす其河間府の屬
る州一縣十一曰景州曰河間縣曰獻縣曰阜城縣曰肅寧縣曰任邱縣曰交河
縣曰寧津縣曰吳橋縣曰故城縣曰東光縣なり（明の瀛州を縁興縣靜海縣南皮
縣慈山縣獻雲縣等と合せ二州
十七縣河間府の屬し清朝改治の同治州改
の縁をもて天津府の屬し後ち京師の直隷とす）

一百二十二里南は山東濟南府の德州の界なり二百九十二里西は保定府の
雄縣の界なり六十里北は雄縣の界なり一百三十里都て河間府
の治むる境内とし府治を河間縣とす

河間縣　此地高河瀛滹沱河の間なるを以て河間の名を郡縣の初めより置る
あなり漢の武垣縣と唐後魏の郎高河縣とを合せ後編戸九七里
高河縣の西小條安府の東二十里と其源を獻山より出て縣の南二十里を流る滹沱河なる
晉河　周の成王其弟叔虞を此地に封し國を晉といふ故に晉河と名くるなり瀛海
ゆるし。○高陽墓　府城の東南にあり。高祖、漢十八墓上眺望をかぎ
州郷城　府の西南三十里にあり漢代の縣治。○武垣城　府の東北十里に
城を築き威を河北に振ふ義招義軍をしてこれを禦ぐむ此時義軍築くる
○人物。漢の宋宝瀛州河間の人なり。孝廉にて為に候ふ。廉上書して曰く。臣
侯。ざることを。南北朝の河間の人なり。慶忠。河間の人なり。
其叔母あり。禍事を構ざる前七旬にして母を亡ふ。慶忠毀瘠
少孤貧にして母に事へ孝養を盡す。後娶て妻を
乗る矣八十九。
○隋の盧左驎。河間の人なり。七歳にして百家の言を通ず。州里皆神童と号す。
吸ひて公侯と名乗るべきと。左驎曰く。男兒豈其名を立ん。
矢帝国に遊ぶ前てこれを辱しむ。煬帝怒る前て姓を盧となさん。
本姓の李仇氏なり。其言ふ天下のごとく於て意ある者歟。

張郃



獻縣

滹沱河

滹沱河　縣城の南を流る。

○宋の李濤が河間の人力を用ひ家族三人を殺し軟徳の物を強奪し逃亡を捜索せしめ其の張怒が河間の人宿寺知樞密院事として逃亡の財用を没収し其の仕丁を印給して商旅を停止し高き怨と天子師を拝し流遁の兵幕て王を動し怨讐を恐て民と為て幕の僞を幕て仕丁を捕へ刀を揮ひ其の法を人を用ひしの用を流るゝの意を郡と社るの会長あり。又役と一都社と旦正副の總首みづく。甚だ令稽に精神と民と廻て幕ると雖も苟まざる幕の契約の系代の幕事を審擬と議し。

○今の劉寺を真ん河間の人力を用ひ原廟式一巻を見ん逸之巻と称し。

河間府縣の南二十里の漢の平城縣の故城と云ふ。三國の魏の興城縣と改む。隋に廢縣と為る。金の貞祐年間に復た置く。後ち廢す。明朝弘治に編戸二十七里。

○宋の李濤が河間の人力を用ひ家族三人を殺し軟徳の物を強奪し逃亡を捜索せしめ其の張怒が河間の人宿寺知樞密院事として逃亡の財用を没収し其の仕丁を印給して商旅を停止し高き怨と天子師を拝し流遁の兵幕て王を動し怨讐を恐て民と為て幕の僞を幕て仕丁を捕へ刀を揮ひ其の法を人を用ひしの用を流るゝの意を郡と社るの会長あり。又役と一都社と旦正副の總首みづく。甚だ令稽に精神と民と廻て幕ると雖も苟まざる幕の契約の系代の幕事を審擬と議し。

○今の劉寺を真ん河間の人力を用ひ原廟式一巻を見ん逸之巻と称し。

河間府縣の南二十里の漢の平城縣の故城と云ふ。三國の魏の興城縣と改む。隋に廢縣と為る。金の貞祐年間に復た置く。後ち廢す。明朝弘治に編戸二十七里。

滹沱河

過了長江與大河　橫流數派滹沱滹沱蕭
玉麥飯曾食卒田首中天感慨多
宋文天祥題滹沱河詩

紅杏園

乾隆帝
渤海經古邑芳園
駐翠輦
徘徊尋故跡云昔
日華館
三雍曾著称五經
亦賴顯
崇構早傾頹土階
新拓展
池臺取畧具琴書
供靜遣
物力毋亟劳容膝
斯已善

荒鳴門書

紅杏園行宮

○葛津枯河　縣の西二里ばかりあり。○馬頰河　縣の東南六十里ばかりにあり。上古黄河の流れし時、馬の頰に似たり。故に名とす。

○房溝　縣の北三十里ばかりにあり。昔時水あり。今は涸れて溝のみを存せり。

○樂壽巖　縣の東南十里ばかりにあり。

○中水城　縣の西北三十里ばかりにあり。漢の高祖其功臣呂馬童を封じ中水侯とせし地なり。此地も濕の二水の間にあるを以て名とす。

○幻杳園　縣の西三十里ばかりにあり。獻王偏と好客總二十餘區と此に建て賓客を聚めしと。真に王侯の別墅にして園中に幻杳觀百楹を構へ、珍奇の花木を植ゑ、帝南巡の時此に幻宮と題せらる。彩石の橋あり。柯と雜ゑて疊ねたる間に水を引き、ほとばしり流れ、激湍の音を聞くごとし。

○人物　漢の劉叔順、樂城の人なり。よく琴を彈じて花沢亭に遊ぶ。帝是を聞召て召出され、琴を彈ぜしめ給ふ。其音清雅にして流水の如し。尚書を遷して禪壁の主となす。

阜城縣　府城の西百四十里ばかりにあり。漢阜と云ふ。後魏阜城縣と改む。

劉麟河　縣の北十二里ばかりにあり。漢の廣川王の開鑿せし河の名殘なり。河の北に里許ばかりの劉麟齊王墓あり。

○漢劉畫墓　縣の南義門鄉にあり。漢の劉畫が墓なり。

肅寧縣　河間府城の西北十里ばかりにあり。もと莆寧城と云ふ。今の名に改む。

中瀆河　縣の東二十里ばかりにあり。其水流を玉茅河と合し滹沱に入る。

○洋水渡　縣の東南二十里ばかりにあり。鐵燈竿口より二渡を入流して中瀆河と合し滹沱に入る。

○五千渡　縣の東南二十里ばかりにあり。韓村の獵王口より二渡を入流して中瀆河と合し滹沱に入る。

○唐河堤　縣の南三十里三縣口の東より韓村の獵王口より迴曲して三十里口岸十八處あり。

○葫蘆河　縣の東北にあり。

○漢劉畫墓　縣の南義門鄉にあり。漢の劉畫が墓なり。

○平陽亭　縣界にあり。相傳ふ、漢の劉徹微行して平陽侯の舍に幸せしと。

[筒子城　縣の東南二十里にあり。獨流水の別名也。]

[華陽亭　縣界にあり。相傳ふ、漢の劉徹微行して平陽侯の舍に幸せしと。]

任邱縣　府城の北十里にあり。漢の鄚縣の地なり。元始二年中郎將經五家を置き海寇を防ぐ。因て名とす。後改めて任丘と云ふ。

[茫茫人不唯劉郎面猶把亭名號御莊　鄚人程敏政詩]

不盡西山色蒼茫遠帝都內迂傳甲第我舌問妻妤寧寘隆中嘯悲涼督元圖昔賢知未遇時一哭窮途計東任丘道中詩

岡芳常

蓮花泊

白鹿峯

濡水

保定府の、容城縣のやうやく南に流れ二縣の小高の莫州の西二十里と東流し、易水と會し、又東流して安州の北に入る。

いん。倒馬關を出でゝ、こゝと唐河とを河同を經、易水と會し、通、拒馬の滿水と合し、河流城の東より、又東流して、通、滋入。

○滹沱河、曲陽より來り、東流して、保の南二里と經、容城の北に流れ入る。易水と合流して、又東流して、安州の北に入る。

○白龍潭　保の西八里、水源出づ。

○五龍潭　保の北十五里、水源出づ。

保の滋水指圖の如く、惟博、容城、保の三縣の界より入り、東流して、安州に入る。其一也水經注に、容城縣の東南に、狐狸渡あり。俗名と拒馬河と合流して、又東流して、安州の北に入る。

○堀鹿渡　保の東南にあり。

○蓮花泊　容城の南三里にあり、又通利渠ともいふ。唐の開元の同保の令、寅恩置とある人、開鑿して、以て灌田と後ひ、水則長堤と築て、以て其患を息む。後て名けて唐公塘と稱す。

○容城　保の東北十里にあり。漢書の地理志の容城縣の條に、故容城、古容國也、周武王封黄帝之後於此、是爲容城侯國、後漢書、公孫瓚、容城を築き、其上に樓を南北に相對して、以て敵を禦ぐ。即ち是なり。

○白馬峯　保の南境にあり。其形馬の如し。

○拒馬河　河向關王莊の東より、西流して、容城の北に入る。

○會沙嶺　保の東北十里にあり。後漢書、公孫瓚、容城を築き、其上に樓を南北に相對して、以て敵を禦ぐ。即ち是なり。

○桂巖　縣の西小境にあり。桂木多し。

○容城　保の東北十里にあり。後漢書、公孫瓚、容城を築き、其上に樓を南北に相對して、以て敵を禦ぐ。即ち是なり。

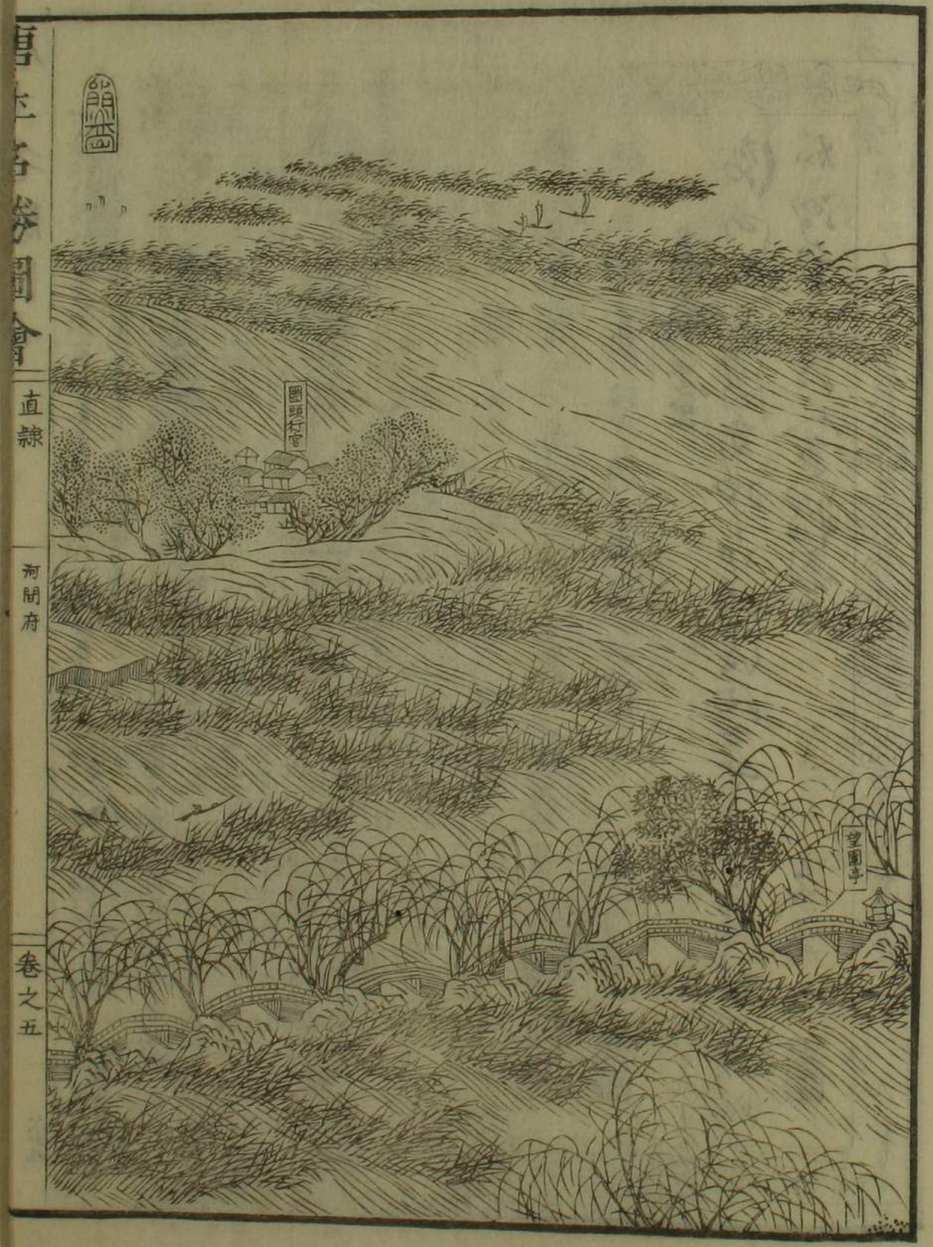
始壯弦旧　田園之

蓋南趙小詩延　佳景如此

白楊深只此事風雪重

十年三過十三橋

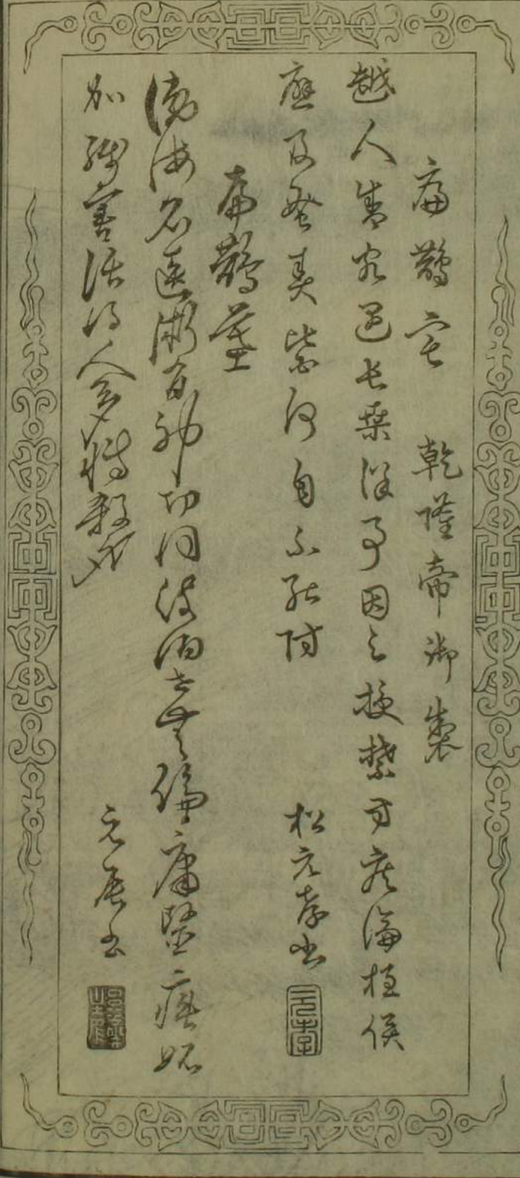
新耕老



趙北口



○顓頊城　縣の北三十五里に莫州城の遺址あり。其つゝお北三十里に古顓頊の遺墟あり。縣中にあり。古城の址なり。○漢を傳。韓嬰故宅　縣の南十里に名村あり。韓嬰、孝文帝の時、博士となり、孫商を生む。商、武帝の時、常山王を傅とせり。詩人の三家推て内外傳數萬言を著はす。今此地に祠と墓其後に接して墓あり。清朝乾隆の間、宸翰を賜ひ、碑亭を建て保護せしむ。碑に若村の名を易て思賢村と改めしと。乾隆帝、御筆を以て額を賜ふ。○遍鵲故宅　縣の小莫州の東小茅王莊にあり。其つゝ小三里許に古墳及び廟あり。廟の内に扁鵲が像を安置す。一故樹數株あり。遍鵲姓は秦名は緩人とぞ。



虞丘墓　縣の北二十里にあり。武王の弟、虞丘墓とぞ。一名、虞舜と。虞舜、吾丘壽王が書と誤一あり。此石記をみて考ふるに、殷に殷契、周に虞丘と、再び興りの名人なり。○人物。縣の刑馬、任邱の人なり。延法の間、官郎中となり、其の淳古なるを愛して、教訓をなさしめんと嘉して、上奏して擢て、裏城の門樓を守らしむ。

交河　縣の南にあり。即、滹沱。高河合流の下をいふ。○滹河　縣の南三里にあり。此河獨、陸地に流る。此河獨、西より流るゝ故の名づく。

交河縣　府城の南六十里にあり。即、漢の高河の二水合流の下なり。

寧津縣　府城の東南二百九十里にあり。縣の南三里にあり。○高河　縣の西北より東南へ流れ、滹沱と合。

黄河古道　縣の西三十里にあり。漢の時、黄河の南岸に沿ひ、東北に向ひ南皮縣の界に入。兩岸に堤あり。

呉橋縣　府城の東南二百九十里にあり。縣の北に運河あり。

龍泉寺　縣治の東北にあり。寺の前に泉あり。



黃河古道



孫臏墓　縣の東南にあり。墓の上に廟あり。臏脚を斬られし時、其の刑せられし所の地なり。

故城縣　府城の南二百九十里にあり。隋の清河郡、歷亭縣の地なり。唐の初、其の地に故城縣を置けり。後ち廢して德州に屬せしめ、今、編戶八里。

枯河　縣の西南三十里にあり。相傳ふ、昔、黃帝、蚩尤と涿鹿の野に戰ひしとき、蚩尤、風雨を起せしかば、帝、玄女の敎へに依りて指南車を造りて蚩尤を擒にせしと。其の車の轍、此の河に遺れりと。

阜城　縣の西南二十里にあり。相傳ふ、漢の劉蘇、河を過りしとき、其の子、年十歲にして、此の城を築きて父を迎へしと。

○蠶堤　縣の西南十里にあり。高さ二丈餘、長さ十餘里。

○居園亭　縣城の西南二里にあり。元の馬祖常、此の地に別墅を構へて居園と名づけしと。

東光縣　府城の東南百二十里にあり。漢代の舊縣なり。

胡蘇河　縣の東三里にあり。漢書の地理志に見えし胡蘇亭あり。胡蘇と其の訛りて、胡蘇となりしと。

獲河　縣の東南にあり。

○永濟渠　縣治の西にあり。其の源を訪ふに、「天貽山即ち橫河より出でて、東光縣の西を流れ、滄州に入る。滄州を過ぎて、海に入る。」と。

胡蘇墓　縣の東南三里にあり。

○三山墓　縣治の後にあり。三の古山あり。其の形、鼎峙相似たり。俗に三山墓と呼ぶ。

後魏の葛榮、この地に都せしと。

未詳。

○西光城　縣治の西南にあり。

景州

府城の南、二百里にあり。漢の棗强縣の地なり。後魏、棗强縣を改めて永安縣と爲す。隋の開皇十六年、再び棗强と改む。唐の武德四年、又、永安と改む。天寶元年、棗强と爲す。即今の州治なり。明、棗强縣と爲す。清朝、之に依る。編戶十八里。

衡河　州の東二十里にあり。源、衡水より出でて、故城縣に至り、此の河より西に派して、百九十里にして、海に入る。

○盧師谷　州の西南にあり。其の形、盧の如し。故に名づく。

○天臺山　州の西南三十里にあり。山の形、臺の如し。故に名づく。

○小蛇山　州の西南にあり。

○千頃洼　州の西南にあり。

廣川墓　州城の西にあり。廣川墓と名づく。

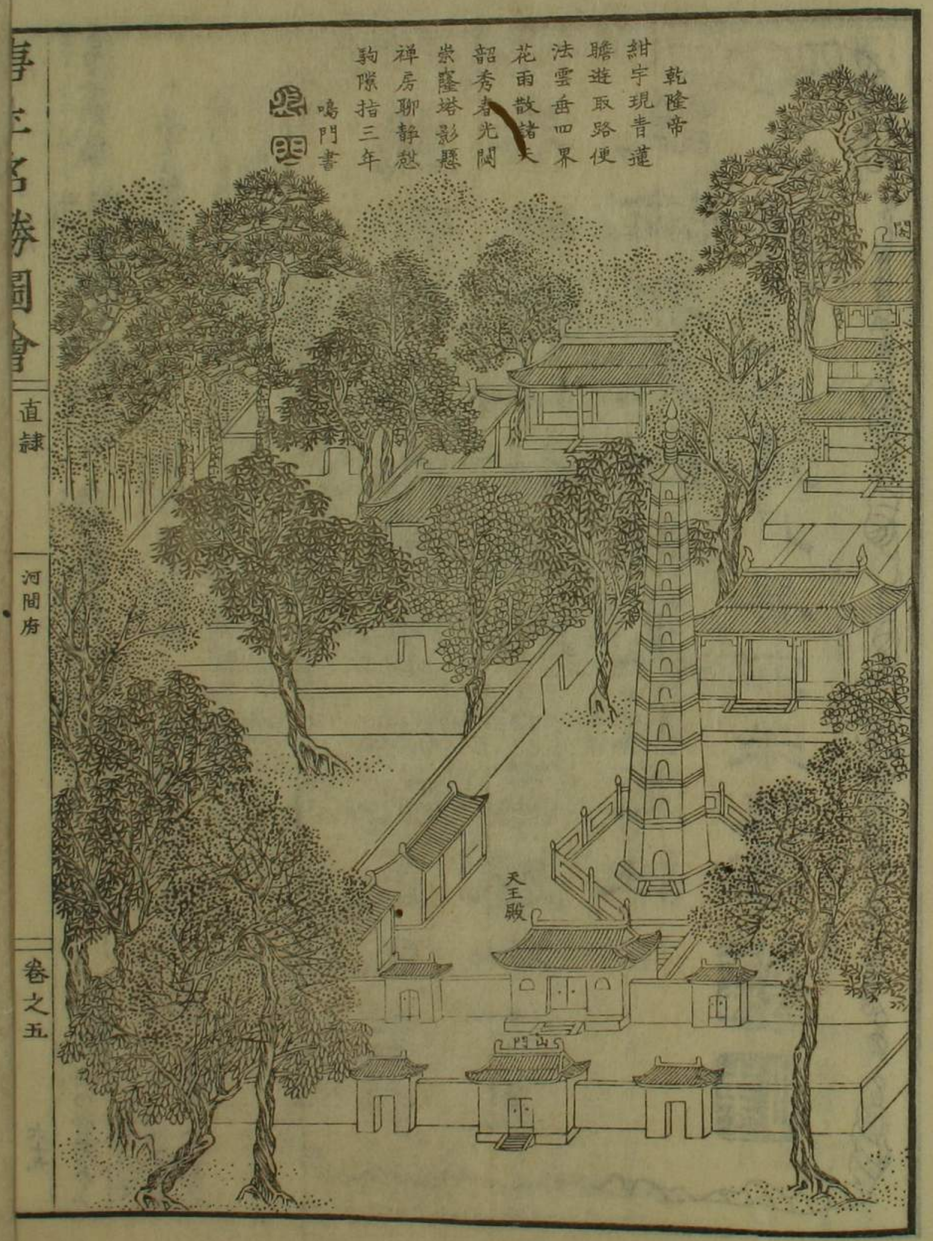
○查愼行董子祠之詩、西風殘照廣川城、董相祠邊感慨生、官秩稍增秦博士、文章獨闢漢西京、醇儒豈以科名重、英主無如經術輕、却笑武皇親制策、牧羊牧豕盡公卿

開福寺　州治の西北にあり。州の洪武の間に建つ。其の寺、傍ち名ける佛とも、亦た古佛なりと。

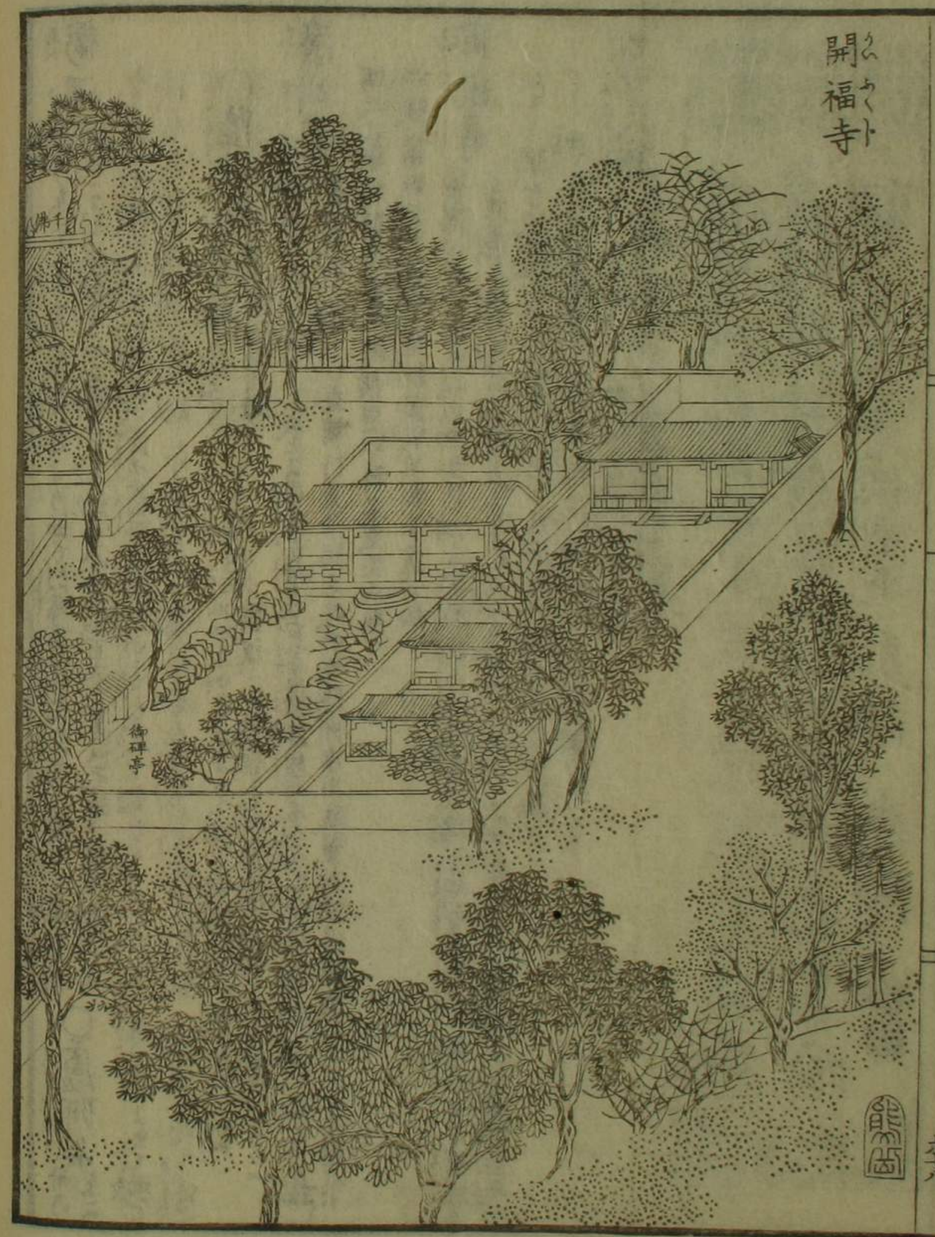
周亞夫廟　州の西武里にあり。俗に周の亞夫、屯軍の地なりと。

○漢室深謀只似癡　楚王當事更無機　荒墳宝玦應沒盡　宜有神光盡陸離　元宋本周亞夫廟詩　秦觀

乾隆帝
紺宇現青蓮
瞻遊取路便
法雲垂四界
花雨散諸天
韶秀春光閙
崇隆塔影懸
禪房聊靜慮
駒隙指三年
鳴門書



開福寺（かいふくじ）



弓高城　卅の北にて十里ばかり。漢の縣治の遺址なり。○慶蔣縣　卅城の内にあり。漢の蔣縣なり。○廣川縣　卅の西南にあり。その昔河堂の記に曰く「廣川の人、廣川の冀都鄕に屬すと。今の景卅蔣縣もと之縣の西南の鄕に、廣川鎭あり。其別墅を董家里といふ。

○董家里　卅の西南六十里ばかり。廣川鎭即董仲舒が下帷讀書の處也。

連郡禾黍名猶昔　故址荒蕪草自春
慨想江都爲相日　高風千古更誰論
名宋紹明董家里詩
文化丙寅孟陬月　吳雨朱迪書

高頻故宅　卅城の北にあり。文帝の時の人なり。初め隋の文帝又在僕射と爲りの二十年忠良と稱せられ、進んで朝政を擅にし、文人皆旨真の掌握なりしと。○賈島村　卅の西南六十里ばかりにあり。島が墓を雲蓋寺の北に築く。故基猶在り。

防山村　廣川鎭にあり。その名の如く、防山の麓にて村名となれり。

○人物

南山翁　高氏、幽谷の人なり。少にして壽考あり。崔宏、その人物を稱して「壽之」と曰ふ。

高頻　卅城の北にあり。文帝の時の人なり。初め隋の文帝又在僕射と爲りの二十年忠良と稱せられ、進んで朝政を擅にし、文人皆旨真の掌握なりしと。

賈島　卅の西南六十里ばかりにあり。島が墓を雲蓋寺の北に築く。故基猶在り。

唐士名勝圖會卷之五終

阿波國文庫

356
2
5

3